

4 A-79

2436

明治十九年三月廿三日發行

# 官令月報

第

號

續

發行所 文英館

特52

5

明治十九年二月發行

# 官令月報

第一號

續編

發行所 文英館

### 例言

一 本報ハ官報ニ記載アル閣省院廳及ヒ  
 京都府ノ布達告示何指令ヲ始メ法制  
 局裁定大審院判決ニ至ル一モ遺漏ナ  
 ク編纂シ一ヶ月ヲ壹號トシ翌月十日  
 限リ發行スルモノトス  
 一 本報紙數下付ノ各列ナルハ其一省毎  
 ニ一年間ヲ追ヒ各列編纂ノ便ニ供ス  
 一 原文ニ行註ナルモノヲ時トシテ一行  
 註ニ伸スルコトアルトキハ〔括弧〕ヲ  
 付シ原文一行註ノ括弧ト其ノ區別ヲ  
 分ツ

明治十九年一月

### 官令月報定價

壹冊ニ付 金拾貳錢  
 六ヶ月分前金 金六拾五錢  
 壹ヶ年分前金 金壹圓貳拾錢  
 但シ京都市外ハ壹冊ニ付郵便稅  
 四錢前金ヲモツテ申受ル  
 追々驛遞局認可ノ上ハ減稅ス  
 一 本報ハ前金領受ノ上ニテ遞送ス  
 一 代價モシ郵便切手代用ナレハ一割  
 増シタルヘシ

憲法 文庫

官令月報

020

官令月報第貳號目次 明治十九年二月分

勅令

勅令第壹號	廿四日	公文式	壹丁
同第貳號	廿六日	各省官制	三丁

內閣

布告第貳號	二日	萬國郵便聯合條約改正	九丁
同第參號	二日	萬國郵便爲替巴里約定及里斯本府追加書	貳拾壹丁
同第四號	十日	郵便條例中改正	三拾貳丁
同第五號	十日	東京軍法會議閉鎖	三拾三丁
同第六號	十七日	陸軍治罪法中加除改正	全丁
閣令第壹號	廿七日	非職官吏ノ俸給下渡方等	三拾八丁
達第八號	三日	七年太政官第七十九號達廢止	三拾六丁
同第九號	一日	警視廳職制中改正	全丁
同第拾號	十五日	省院廳統計主任	全丁
同第拾壹號	十七日	十六年太政官第三十五號達廢止	全丁

●官令月報第貳號

(明治十九年二月份)

同第拾貳號 十七日 臨時建築局設置 三拾七丁  
 同第拾三號 廿四日 十四年太政官百十一號達へ追加 全丁

● 官 內 省

達第壹號 四日 宮內省官制 三丁  
 同第貳號 十日 華族女學校職員及官等俸給改定 拾貳丁

● 內 務 省

達甲第貳號 一日 河港道路橋梁其他修築工費總計帳等改正 五丁  
 同第 三號 二日 十六年乙第壹號達廢止 全丁  
 同第 四號 二十日 徒刑流刑等ノ處刑者ヲ届出ニ不及 六丁  
 同第 五號 廿三日 十七年內務省乙第四十號達中削除 全丁  
 同第 六號 廿五日 警察聯合會規則等廢止 七丁  
 同第 七號 廿六日 巡查看守給助例施行年度 全丁  
 達乙第 壹號 二十日 集治監等拘禁ノ囚徒死亡ノ都度届出ニ不及 六丁  
 告示第 六號 一日 醫術開業試驗舉行地ノ内改正 全丁  
 同第 七號 廿五日 醫師產婆藥舖開業免狀紛失ノ件ヲ官報ニ廣告 七丁

● 大 藏 省

達第拾壹號 十二日 報告表ノ中改正 貳拾壹丁  
 同第拾貳號 十七日 收稅課職員報告 全丁  
 同第拾三號 十七日 煙草印紙ノ内燒却方 全丁  
 同第拾四號 十七日 府縣徵稅費ノ出納ニ要スル補助簿樣式 貳拾貳丁  
 同第拾五號 廿三日 租稅表及報告表調理順序附屬諸表樣式等ノ中更正 全丁  
 告示第拾貳號 三日 須賀川第百八國立銀行跡引受人職務差免 拾壹丁  
 同第拾三號 四日 公債証書發見 全丁  
 同第拾四號 四日 全 盜難 全丁  
 同第拾五號 四日 全 紛失 拾貳丁  
 同第拾六號 十日 全 發見 全丁  
 同第拾七號 十二日 全 紛失 全丁  
 同第拾八號 十三日 新公債証書當籤 拾三丁  
 同第拾九號 十八日 公債証書發見 貳拾貳丁  
 同第貳拾號 廿四日 全 上 貳拾三丁  
 同第貳拾壹號 廿五日 全 盜難 貳拾四丁

● 陸軍省

達甲第 貳號 十六日 近衛下士豫備役等ニ入籍者ヲ近衛艦員ニ定ム  
同 第 三號 廿三日 陸軍醫部講習生召集差止 全 五  
丁

● 海軍省

達乙第 貳號 五日 下士卒結婚届出ニ不及 貳拾貳丁  
達丙第 六號 二日 海軍志願生徒身體檢查手續中改正 三  
同 第 七號 二日 停年名簿編纂例 全 丁  
同 第 八號 四日 海軍軍樂隊橫須賀鎮守府所轄ト定ム 四  
同 第 九號 五日 下士ノ結婚通知方 全 丁  
同 第 拾號 六日 常備小艦隊監城艦豫備艦ト定ム 全 丁  
同 第 拾壹號 六日 盤城艦隊備艦ナルノ間其人員常置表 五  
同 第 拾貳號 九日 報告例中廢止 全 丁  
同 第 拾三號 九日 下士以下兵籍上異動ニ係ルモノ報告方 六  
同 第 拾四號 九日 同 黜陟等報告ノ達廢止 六 丁  
同 第 拾五號 十日 海軍砲隊操式海軍拳銃操法 全 丁  
同 第 拾六號 十三日 長崎海軍出張所ヲ廢止 全 丁

達丙第 拾七號 十三日 兵庫海軍用所名稱改定 六  
同 第 拾八號 十三日 橫濱田ノ浦等ニアル石炭庫等名稱 七  
同 第 拾九號 十三日 海軍東京監獄署廢止 全 丁  
同 乙第 三號 十三日 海軍艦内教授役警吏筆記校用規則中改正 全 丁  
同 丙第 貳拾號 十五日 海軍機關部條例等廢止 八 丁  
同 丙第 貳拾壹號 十五日 海軍兵學校等ノ主計部計算課ト改稱 九 丁  
同 乙第 四號 十七日 海軍兵學校條例廢止 全 丁  
同 丙第 貳拾四號 十七日 攝津艦ヲ廢ス 全 丁  
同 乙第 五號 十九日 海軍准卒中將官從僕等廢止 全 丁  
同 丙第 貳拾五號 十九日 海軍艦船營備夫規則 全 丁  
同 乙第 六號 十九日 艦内教授役三上長及下士以下移籍改名等届方 拾 三  
同 丙第 貳拾七號 十九日 海軍下士卒戶籍上異動アルト届出方 全 丁  
同 乙第 七號 十九日 旗艦増員表廢止 拾 四  
同 丙第 貳拾八號 十九日 司令長官等乘艦中艦ノ構造ニヨリ人員定限 全 丁  
同 第 貳拾九號 十九日 橫須賀屯營浦賀屯營定員表中艦長從僕改稱 貳拾 五  
同 第 三拾號 十九日 浦賀屯營條例中廢止 全 丁  
達 第三拾壹號 十九日 海軍下士以下給與概則中改正追加 全 丁  
同 第三拾貳號 二十日 全 丁

● 官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

同 第三拾三號	二十日	艘船營備夫下士卒ニ準シ食料等ヲ給ス	拾八
同 第三拾四號	廿三日	海軍造船所條例廢止	全
同 乙第九號	廿四日	條軍機關學校條例廢止	全
同 丙第三拾五號	廿五日	掌砲証狀規則改定	拾九
同 丙第三拾六號	廿五日	迅鯨艇水雷術練習ト相定	貳拾
同 第三拾七號	廿五日	長浦水雷營定員表等相定	全
同 第三拾八號	廿五日	水雷術練習艦乘組員俸給支給方	全
同 第三拾九號	廿七日	若水兵教育概則中改正	全
同 第四拾號			丁

● 文 部 省

達 第 壹 號 廿三日 十四年第廿一號第廿二號廢止 壹 丁

● 農 商 務 省

達 第 貳 號 十五日 茶業組合規約認可ノ上届出方 九 丁

同 第 三 號 廿四日 鑛山借區稅急納者處分方 全 丁

同 第 四 號 廿四日 十六年農商務省第八号達中更正 全 丁

告 示 第 四 號 四日 守隨彦太郎本邦量目西洋形權衡製作賣弘方免許 五 丁

● 司 法 省

同 第 五 號 六日 銀鑛試堀假證券等所在不分明 五 丁

同 第 六 號 六日 硫黃試堀證券所在不分明 六 丁

同 第 七 號 十九日 株式仲買認許證紛失 七 丁

同 第 八 號 十九日 獸醫開業試驗舉行地 全 丁

達 丁 第 三 號 五日 十七年丁第十二号達廢止 三 丁

● 遞 信 省

告 示 第 四 號 八日 靜岡縣下熱海ニリ長野縣下飯田ニ電線架設 三 丁

同 第 五 號 八日 萬國郵便聯合條約實施ニ關スル細目規則 全 丁

同 第 六 號 八日 同 爲替約定實施ニ關スル細目規則 全 丁

同 第 七 號 十日 小形船々長枝術免狀流失 四 丁

同 第 八 號 十八日 海軍船及西洋形商船信号符字 全 丁

# 官令月報

第壹號

編 者

明治十九年二月分

官報 自第七百七拾貳號  
至第七百九拾四號 抄記

明治十九年二月分

京都府諸達類聚

入

（The following text is extremely faint and largely illegible, appearing to be a list of official orders or decrees.)

# 勅令

朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公文式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年二月二十四日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

勅令第一號

公文式

第一 法律命令

第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理

大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ

事務ニ屬スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス

第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ

法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス

勅令  
查

● 官令月報第貳號

(明治十九年二月分)



第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス  
 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス  
 第八條 各官廳ニ一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳所務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム  
 第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四号布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メテ現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラズ

第三 印璽

第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス  
 國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

朕各省ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年三月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

勅令第三號

各省官制

通則

第一條 此命令中各省トアルハ外務省內務省大藏省陸軍省海軍省司法省文部省農商務省遞信省ヲ合稱ス

此通則ニ依リ難キモノハ其省ノ都ニ就テ之ヲ定ム

第二條 各省大臣ハ其主任ノ事務及今後法律勅令ニ依リ主任官職スル事務ニ付其責ニ任ス主任ノ事務兩省以上ニ關涉スルトキハ關涉ス各省大臣ノ間ニ協議ヲ經テ其主任ヲ定メ上

奏スヘシ若シ各省大臣ノ間協議決定セザルトキハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第三條 各省大臣事故アルトキハ臨時命ヲ承テ他ノ大臣其事務ヲ代理スルコトアルヘシ

第四條 凡ソ法律勅令ノ各省大臣主任ノ事務ニ屬スルモノハ各省大臣内閣總理大臣ト均シ

シ之ニ副署ス若シ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ内閣總理大臣及關涉ノ各省大臣均

シ之ニ連署スヘシ

第五條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ

案ヲ具ヘ閣議ニ提出スルコトヲ得

第六條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付其職權若シハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ノ範圍内ニ

於テ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ省令ヲ發スルコトヲ得

第七條 各省大臣ノ命令ニハ罰金二十五圓以下又ハ禁錮二十五日以内ノ罰則ヲ附スルコト

ヲ得

第八條 各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其省中各局課及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ム

ルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ儀ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外各

省大臣ハ其職務ヲ次官ニ代理セシメ又ハ其職務ノ一部ヲ次官ニ委任スルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ニ指令又ハ訓令ヲ

下スコトヲ得

第十一條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付警視總監北海道廳長官府知事縣令ヲ監督スヘシ若

視總監北海道廳長官府知事縣令ノ處分又ハ指令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯ス

モノアリト認ムルトキハ其處分指令ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官以上ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上

奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ叙位叙勳及恩給ヲ上奏スヘシ

第十四條 各省大臣ハ閣議ノ後裁可ヲ經ルニ非サレハ局課ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外新ニ

勅奏任官ヲ增加スルコトヲ得ス

第十五條 各省大臣ハ豫算決定後臨時ニ増額又ハ別途支出ヲ請求スルコトヲ得ス但臨時ノ

事變及他ノ成規ニ依リ止ムヲ得サルモノハ此限ニアラス

第十六條 各省大臣ハ俸給豫算額内ニ於テ其省限り定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十七條 各省大臣ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使

用スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ其主任ノ事務ニ付時々ノ狀況ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十九條 各省大臣ハ每會計年度末ニ於テ前年ノ功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ヲ經テ報告書ヲ

上奏スヘシ

第二十條 各省大臣ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時事務ノ爲ニ使

用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 各省大臣ハ一周年末ニ其省ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者

勅令 五

ナ實與シ之ヲ官報ニ公録スルコトヲ得  
 第二十二條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲシテ他省ニ涉リ又ハ他省ヨリ兼官セシムルコトヲ得  
 ス若シ止ムヲ得サル要用アルトキハ之ヲ閣議ニ提出シテ裁可ヲ請フヘシ  
 第二十三條 各省大臣ハ臨時審査ノ爲メ省中定員ノ内ヲ以テ便宜委員ヲ設クルコトヲ得  
 第二十四條 各省大臣ハ法律勅命ノ定タル所ヲ從ヒ部下官吏ヲ懲戒ス  
 第二十五條 各省職員ヲ置ク左ノ如シ

次官

秘書官

書記官

局長

參事官

局次長

試補

局

第二十六條 前條ノ外各省特別ノ職員ヲ置クモノハ各省部ニ就テ之ヲ定ム  
 第二十七條 各省次官一人ヲ置ク勅任トス  
 第二十八條 次官ハ主任大臣ノ命ヲ承ケ第九條ノ範圍内ニ於テ大臣ノ職務ヲ代理シ又ハ大臣ノ指命シタル範圍内ニ於テ委任ヲ受ク

次官事故アルトキハ大臣其省中ノ官吏ヲシテ臨時其職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第二十九條 次官ハ大臣ノ代理トシテ公文ニ署名スルコトヲ得

第三十條 次官ハ總務局長トナリ命ヲ大臣ニ承ケ各局課ノ事務ヲ監督シ省務ノ全部ヲ整理スルノ責ニ任ス

第三十一條 各省ニ大臣官房ヲ置ク大臣官房ハ機密文書ヲ掌リ大臣次官ノ官印及省印ヲ管守ス

第三十二條 大臣官房ハ大臣親展ノ文書機密事務所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務及大臣ニ屬スル一切ノ事務ヲ掌ル

所部官吏ノ進退身分ニ關スル事務ハ各省ノ便宜ニ從ヒ總務局中ノ一課ニ於テ處理スルコトヲ得

第三十三條 秘書官ハ委任トス大臣ニ專屬シテ官房ノ事務ヲ掌ル

秘書官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十四條 秘書官ハ臨時命ヲ承ケ書記官及各局課ノ事務ヲ助ケルコトアルヘシ

各省ノ便宜ニ依リ特ニ秘書官ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第三十五條 各省中省務ノ全部ヲ統轄スル爲メ總務局ヲ置キ省務ヲ分掌スル爲メ各局ヲ置ク

第三十六條 各省總務局ニ文書課往復課報告課及記錄課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第三十七條 文書課ハ省中各局成案ノ回議ヲ審查シ諸文案ヲ起草スル事ヲ掌ル

第三十八條 往復課ハ凡テ各省ニ到達スル公文書類及成案文書ヲ接受シ并發送ノ事ヲ掌ル

第三十九條 報告課ハ各局課ニ就キ統計報告ノ材料ヲ採輯シ統計報告ヲ調整シテ大臣ノ査

閱ニ供シ官報掲載ノ事項ヲ官報局ニ送致スル事ヲ掌ル

第四十條 記録課ハ其省及省中各局課一切ノ公文書類ヲ編纂保存ス

各省中記録局ノ設ケタルモノハ別ニ記録課ヲ置カス

第四十一條 各省ノ便宜ニ依リ特ニ総務局ノ所掌ニ屬セシムルモノハ各省ノ部ニ就テ之ヲ

定ム

第四十二條 書記官ハ奏任トス大臣又ハ総務局長ノ命ヲ承ケ各局ノ成案ヲ審査シ文書ヲ掌

リ又ハ総務局中諸課ノ長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス

書記官ノ定員ハ各省ノ部ニ就テ之ヲ定ム

第四十三條 總務局ノ外各局ニ局長局長各一人ヲ置ク局長局長ハ奏任トス各局ニ局長

アレハ局長次長ヲ置カス局長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ

第四十四條 局長ハ大臣又ハ總務局長ノ命ヲ承ケテ其主務ヲ掌理シ及各課ノ事務ヲ指揮ス

第四十五條 局長又ハ局長次長ハ其主任ノ事務ニ付其職權ニ屬シ又ハ特別ノ委任ヲ受クルノ

事項ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第四十六條 局長ハ局長ノ事務ヲ佐ク若シ局長ナキトキ又ハ局長事故アルトキハ大臣ノ

命ニ依リ局長ノ事務ヲ掌理ス

第四十七條 參事官ハ奏任トス大臣又ハ次官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

●布告第貳號

明治十二年三月第拾壹號布告萬國郵便聯合條約ノ儀同十八年三月葡萄牙國里斯本府郵便

大會議ニ於テ別冊改正議決ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年二月二日

奉 勅

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文  
外務大臣 伯爵 井上馨  
遞信大臣 榎本武揚

「別冊」

萬國郵便聯合

千八百七十八年六月一日 日耳曼亞米利加合衆國、亞然的音共和國、澳地利洪噶利、白耳  
義、ボリウツア、伯西兒、バルガリア、智利、コロンビア合衆國、コスタリカ共和國、丁抹及其  
殖民地、ドミニカ共和國、埃及、エネドール、西班牙及其殖民地、佛蘭西及其殖民地、大不列  
顛及其諸殖民地、加那太、英領印度布臘、カタマラ、ハイチ共和國、布哇王國、ホンヂユラス  
共和國、伊太利、日本、ラサヘリア共和國、歷山堡、墨西哥、滿得涅各羅、ニカラエア、パラグワ  
イ、和蘭及其殖民地、白露、波斯、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼亞、露西亞、薩瓦多、塞爾維、暹羅  
王國、瑞典那威、瑞西、土耳其、ウルグワイ及ヴェネチヰエラ合衆國ノ間ニ締結シタル條約ノ  
里斯本府追加書

下ニ記名セル前掲諸國政府ノ全權委員ハ千八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結シタル條  
約第十九條ニ據リ爰ニ大會議ヲ里斯本府ニ開キ互ニ協議ヲ遂ケ更ニ批准ヲ要スヘキモノト

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

シテ左ノ追加書ヲ議決ス

第一條

千八百七十八年六月一日ノ條約左ノ通修正ス

第二條左ノ通改正ス

第二條

此條約ノ條件ニ照準スルニキモノハ聯合中ノ甲國ヨリ發シ聯合中ノ乙國ニ宛タル信書、  
端書、往復端書、各種ノ印刷物、商務上ノ書類及商品ノ見本トス又聯合中ノ諸國ト聯合外  
ノ諸國トノ間ニ前記ノ郵便物ヲ郵送交換スルニ當リテ二箇以上ノ聯合國ヲ經テ之ヲ遞  
送スルトキ其聯合疆内ノ遞送ニ就テハ同様此條約ニ從フニキモノトス  
締約諸國ハ必ズモ往復端書ヲ發行スルヲ要セスト雖トモ聯合中ノ一國ヨリ該端書ヲ  
受領スルトキハ其返信ノ部ヲ還送スルニキモノトス

第四條左ノ通修正ス

第八項左ノ通改正ス

第二 現時海路離越運送價ヲ信書或ハ端書「キログラム」ニ付五「フラン」其他ノ  
物品「キログラム」ニ付五十「サンチム」ト定メタル國々ニ於テハ今後モ此  
割合ヲ改メサルヘシ

第十三項左ノ通修正ス

此運送價ノ總勘定ハ三ヶ年毎ニ調査シタル計算書ニ基キ第十四條ニ記セル細目規則  
中ニ定ムルニキ處ノ二十八日ノ期限内ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十四項左ノ通改正ス

各郵便局ノ間互ニ往復スル書信差立國ニ向ケ還送スル返信端書、再達又ハ誤達ノ郵  
便物、沒書、受領證、郵便爲替或ハ其振出シ報知書其他都テ郵便事務ニ關スル書類ハ海  
陸トモ離越運送價ヲ拂フヲ要セス

三

第五條左ノ通修正ス

第三項左ノ通改正ス

第二 端書ハ通常(一枚)端書或ハ往復端書ノ各片ニ付十「サンチム」トス

第七項ノ末文「又一時便宜ノ爲メ」云々ノ一段ヲ削除ス

第十四項左ノ通改正ス

第四 重量ニ「キログラム」ニ過キ若クハ一面ノ寸尺四十五「サンチメートル」ニ過  
キタル兩榜上ノ書類及各種印刷物

四

第五條ト第六條トノ間ニ左ノ一條ヲ追加ス

第五條(乙)

郵便物ノ差出人ハ其郵便物未ダ名宛人ニ配達セラレサル間ハ之ヲ取戻シ又ハ其名宛ヲ變更スルコトヲ得

右取戻又ハ名宛變更ノ請求ハ差出人ノ自辨ニテ郵便又ハ電信ヲ以テ之ヲ送達ス即チ差出人ハ左ノ賃銀ヲ拂フヘシ

第一 郵便ヲ以テ右請求ヲ送ルトキハ一回ニ付信書一通ノ書留郵便稅

第二 電信ヲ以テ右請求ヲ送ルトキハ通常ノ電信料  
本條ノ條款ハ郵便物遞送中差出人ノ隨意ニスルコトヲ許サ、ル法制ノ國ニ於テハ必シモ之ヲ遵守スルノ義務アリサルヘシ

五

第六條第六項ヨリ以下五項ヲ削除シ又同條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第六條(乙)

書留郵便物若シ紛失セシトキハ其防止シ難キ場合ヲ除クノ外其差出人又ハ差出人ノ請求ニ由リ其名宛人ニ於テ五十「フラン」ノ賃金ヲ要求スルコトヲ得  
右賃金ヲ拂フノ義務ハ差立局所屬ノ驛遞局ニ於テ之ヲ負フモノトス但該驛遞局ハ辨償ノ責アル驛遞局即チ其領地内或ハ其取扱中ニ郵便物紛失アリシ驛遞局ニ對シテ右賃金ノ拂戻ヲ要求スルコトヲ得

郵便物ヲ異議ナク受領シタル後之ヲ其名宛人ニ配達セシコト若クハ之ヲ繼續驛遞局ニ常式ニ依リ引渡シタルコトヲ證明スル能ハサル驛遞局ハ別ニ反對ノ證左アル迄ハ辨償ノ責アルモノトス

差立局ニ於テ賃金ノ拂渡ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲シ通シモ其要求ノ日ヨリ一ケ年ヲ超ユヘカラス又辨償ノ責アル驛遞局ハ遲滞ナク差立局ニ其賃金額ヲ拂戻スヘシ  
賃金ノ要求ハ書留郵便物差出ノ日ヨリ一ケ年内ニ爲ストキニ限り受理セラル、モノトス

ス若シ此期限後ニ至ルハ要求アルモ辨償ヲ受ルノ權理ナキモノトス  
隣接シタル二國ノ交換局間ニ遞送中郵便物ヲ紛失シ其紛失ノ地兩國ノ中孰レニアルヲ確知スル能ハサルトキハ兩國ノ驛遞局各々賃金ノ半額ヲ負擔スヘシ  
書留郵便物ヲ對スル驛遞局ノ責任ハ右郵便物ヲ受領スルノ權アル者其配達ヲ受テ受領證ヲ出シタルトキハ止ムモノトス

歐羅巴以外ニ在テ現時其法律ニ於テ辨償責任ノ事ヲ認許セサル國ノ驛遞局ハ其制法應ヨリ前項ノ條款ヲ認諾スルノ允許ヲ得ル日マテ其條款ノ實施ヲ一時便宜ノ爲メ延期スルコトヲ得但其實施ノ日迄ハ他ノ聯合國ノ驛遞局ニ於テモ右ノ國ヨリ發シ又其國ニ宛テタル書留郵便物ヲ遞送中紛失セルトキ其賃金ヲ拂フノ責ナキモノトス

六

第九條及第十條ノ間ニ左ノ一條ヲ追加ス

第九條(乙)

聯合諸國中相互ニ其承諾アルトキハ差出人ノ請求ニ依リ各種郵便物ヲ其到達次第直ニ特別配達人ヲ以テ其名宛人ニ配達スルコトアルヘシ

此郵便物ハ別配達ト稱シ特別配達料ヲ徵收ス但此配達料ハ三十「サンナーム」ト定メ差出人ヲシテ通常郵便税ノ外ニ豫メ之ヲ完納セシメ且差立國驛遞局ノ所得ニ歸スルモノトス

郵便局ノ設ケナキ地方ニ宛タル郵便物ニ付テハ名宛驛遞局ハ其内地郵便物別配達ノ爲メニ定メタル税額ニ達スルマテ更ニ補充税ヲ徵收スルヲ得但此補充税ハ差出人ノ拂ヒタル別配達料ノ額ヲ引去リ或ハ補充税徵收國ノ通貨ニ對スル其相當額ヲ引去リ計算スヘキモノトス

七

第十條左ノ通改正ス

聯合各國ニ於テ郵便物ヲ再達スルコトアルトモ之カ爲メ別ニ増税ヲ取立ツヘカラス没書トナリタル郵便物ニ付テハ光キニ乏テ遞送セシトキ媒介局ニ於テ收入シタル權越運送賃ヲ返還セサルモノトス

八

第十一條中第一項第二項及第三項ヲ廢シ更ニ左ノ諸項ヲ置ク

左ニ記載ノモノハ郵便ヲ以テ遞送スルコトヲ許サス

第一 正貨ヲ封入スル信書或ハ包物

第二 關稅ヲ課スヘキ物品ヲ封入セル各種ノ郵便物

第三 金銀地金寶石珠玉其他高價ノ物品但其國ノ法律ニ於テ其封入若クハ遞送ヲ許サハル場合ニ限ル

九

第十三條左ノ通修正ス

價額公記ノ書狀、郵便爲替、小包郵便物、餘金取立狀及ヒ身元證明帳等ノ交換ハ聯合中數國ノ間ニ特別約定ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

十

第十四條ノ末項「信書別配達ノ約束」云々以下ヲ削リ該項左ノ通更定ス

然レトモ諸國ノ驛遞局ハ互相ノ協議ニ依リ三十「キロメートル」以内ノ地ニ於テ更ニ郵便税ヲ減スルコトヲ得ヘシ

十一

第十五條第一項ノ文左ノ通修正ス

此條約ノ諸條ニ於テ明記セルモノヲ除クノ外此條約ハ各國ノ成規ト相關係スルコトナ

十二

第十七條左ノ通修正ス

此條約ノ意味ヲ解說スルニ於テ若クハ審判郵便物紛失ノ際驛遞局ノ責任ヲ定ムルニ於テ聯合二局以上ノ間ニ異見ヲ生スルト申ハ中裁ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ而シテ右異見ヲ有



スル各局ハ此事件ニ付直接ノ關係ナキ他ノ聯合局ヲ推撰シテ其中裁トナスヘシ  
中裁ノ判決ハ其裁判員過半数ノ發言ニ依リ定ムヘシ  
若シ可否同數ノ發言アルトキハ其裁判總員ヨリ此事件ニ關係ナキ他ノ一局ヲ推撰シ其  
裁決ヲ爲サシムヘシ

本候ノ諸定規ハ亦凡ソ此追加書第一條第九項ヲ以テ修正シタル千八百七十八年六月一  
日ノ條約第十三條ニ準シ締結セル諸約定ニモ均シク適用スヘキモノトス

十三

第二十條第二項及第三項左ノ通修正ス

第一 本條并ニ前ニ記載シタル第二條第三條第四條第五條第五條(乙)第六條第六條

(乙)第九條及第九條(乙)ノ諸定規ヲ變更セントスルトキハ全聯合諸國ノ同意ヲ  
要ス

第二 此條約中第二條第三條第四條第五條第五條(乙)第六條第六條(乙)第九條第九條  
(乙)及第二十條ノ外他ノ諸定規ヲ變更セントスルトキハ聯合諸國中三分ノ二以  
上ノ同意ヲ要ス

上ノ同意ヲ要ス

第二條

一此追加書ハ千八百八十六年四月一日ヨリ實施シ八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結シ  
タル條約ト同時期ノ間効力ヲ有スルモノトス

二此追加書ハ可成速ニ批准ヲ受ケ其批准書ハ里斯本府ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右確證ノ爲メ前掲諸國ノ全權委員ハ千八百八十七年三月二十一日里斯本府ニ於テ此追加書

ニ記名スルモノナリ

日本

野村靖

日耳曼

フリツシユ

北亞米利加合衆國

ウヰリアム、チー、オット

亞然的音共和國

ジヤス、エズ、クロウ、ホルト

澳地利

エフ、ビー、バン、セン

洪噴利

ドウ、エズ

白耳義

ヴ、ハル、ヨ、エス

ボリツイア

ヨ、ア、キン、ガ、ア、ー

伯西兒

レイ、ズ、シ、ビー、ギ、マ、ライ、ス

バルガリア

ア、ー、ル、オ、ウ、ノ、フ

智利

エ、ム、マル、チ、チ、ズ

コロンビア合衆國

セ、ザ、ル、コ、シ、ト、ー

コスタリカ共和國

コ、ン、ド

丁抹及其殖民地

コ、ン、ド

明治十九年二月分

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)



ドミニカ共和國  
埃 及  
ニコエドル  
ア、フロレス

西班牙及其殖民地  
エス、アルヴハレス、ピユガラール  
エ、ヘルス

佛蘭西  
ラブウレイ  
ア、ベスニエー

佛蘭西殖民地  
ラブウレイ

大不列顛及其諸殖民地  
エス、エ、ブラツクウード  
エツチ、ホクストン、フホルマン

加那太  
エス、エ、ブラツクウード  
エツチ、ホクストン、フホルマン

英領印度  
エツチ、ホクストン、フホルマン

希臘  
ウー、マエーヌ、ボレル

ガマラ  
シエー、カレラ

ハイチ共和國  
ラブウレイ  
アンソール

布哇王國  
ウー、マエーヌ、ボレル

ホンデユラス共和國  
マエー、カレラ

伊太利  
シエー、ピー、タシテシオ

メキシコ共和國  
コント、サンマルチー

歴山堡  
シエー、カレラ

墨西哥  
エス、エ、ブラツクウード

滿得涅各羅  
ドウエズ  
ウー、マエーヌ、ボレル

ニカラエア  
マニエ、エス、エ、ブラツクウード

パラグワイ  
エス、エ、ブラツクウード

和蘭及其殖民地  
ホフ、アムステルダム、ラングス、ウイホルグ  
ビー、スウキルツ、ド、ラングス、ウイホルグ

白 露  
エス、セ、ミ

波 斯  
エス、セ、ミ

葡萄牙  
ギレルミノ、オウガスト、ド、パロス  
エルチスト、マヂイラ、ピント

葡萄牙殖民地  
ギレルミノ、オウガスト、ド、パロス

羅馬尼亞  
シエー、カレラ

露西亞  
エス、エ、ブラツクウード  
シエー、カレラ

薩瓦多

賽爾維

暹羅王國

瑞典

那威

瑞西

土耳其

ウルフワイ

ウエチエニラ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝座ヲ踐ミタル日本國皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

明治十一年(千八百七十八年)六月一日佛蘭西國巴里府ニ於テ締結セル萬國郵便聯合條約ニ追加スル爲メ明治十八年(千八百八十五年)三月二十一日葡荷牙國里斯本府ノ萬國郵便聯合會議ニ於テ右同盟各國全權委員ノ記名シタル條約書ヲ朕親ヲ閱覽點檢セルニ能ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ之ヲ嘉納批准シ日本國ニ於テ之ヲ履行遵守セシムルコトヲ茲ニ約ス

神武天皇御即位元二千五百四十六年

明治十九年一月十五日東京宮中ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽 奉勅 外務大臣伯爵井上馨

布告第三號

明治十八年(三月)葡荷牙國里斯本府郵便大會議ニ於テ萬國郵便爲替約定ニ加入シ別冊萬國郵便爲替巴里府約定及ヒ里斯本府追加書ノ通本年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年二月三日

奉勅 內閣總理大臣伯爵伊藤博文  
外務大臣伯爵井上馨  
遞信大臣 榎本武揚

「別冊」 萬國郵便聯合

日耳曼、澳地利、洪、高利、白耳義、下抹、埃及、佛蘭西及其殖民地、伊太利、歷山堡、那威、和蘭、葡、荷、牙、羅馬尼亞、瑞典及瑞西ノ間ニ締結セル郵便爲替交換約定

下ニ記名セル前掲諸國政府ノ全權委員ハ郵便聯合創立條約改正ノ爲メ千八百七十八年六月一日ヲ以テ巴里ニ於テ締結セル條約第十三條ニ據リ協議ヲ遂ケ更ニ批准ヲ受クヘキモノトシテ左ノ約定ヲ決定ス

第一條

郵便爲替同盟國中此業務ヲ互ニ施行セントスル國々ノ間ニ爲替ヲ交換スルハ此約定ノ諸項目ニ準據スヘシ

第二條

爲替ノ金額ハ正金ヲ以テ差出人ヨリ受領シ受取人ニ拂渡スヲ定則トス然レトモ各驛遞局ハ其國ニ通用ノ紙幣ヲ以テ爲替金受拂ニ充用スルヲ得ヘシ但相場ノ差アルトキハ其

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

差ヲ算入スルキモノトス  
 二 爲換一口ノ金額ハ五百「フランク」迄トシ其他ノ貨幣ナリハ之ニ最近ノ額ヨリ超過スルカラス  
 三 關係驛遞局ノ間ニ特別ノ約束アルモノヲ除クノ外爲換券面ニ拂渡國ノ通用貨幣ヲ以テ金額ヲ記載スルハ振出國ノ驛遞局ハ之カ爲メ必要ナルトキハ自國ノ貨幣ヲ拂渡國ノ貨幣ニ引直スルキ割合ヲ定ムヘシ  
 四 締盟各國ハ其國內ニ於テ他ノ締盟國ヨリ到達セル爲換ニ裏書ノ方法ヲ以テ其所有權讓渡ヲ許スル權アリ

第三條

一 前條ニ據リ差出人ヨリ取立ヘキ爲換一口ノ手数料ハ二十五「フランク」或ハ其端數又他ノ貨幣ニシテ端數ヲ生ズルトキハ全數ニ引上ケ之ト相當ノ金額ニ付二十五「フランク」トス  
 然レトモ締盟各國驛遞局ハ五十「フランク」ニ過キザル爲換一口ニ付其最少額ノ手数料トシテ五十「フランク」ヲ取立ルヲ得ヘシ  
 二 振出驛遞局ハ拂渡驛遞局ニ對シ前項ニ據リ取立タル手数料ノ半額ヲ拂フヘシ  
 三 郵便爲換券及券面ニ記載スルキ受取書並ニ差出人ニ交付スル受取證ニ付テハ本條第一項ニ據リ取立ル手数料以外何等ノ手数料ト雖トモ差出人又ハ受取人ニ賦課スルヲ得ス但受取人ノ住所ニ就テ拂渡ヲナス爲メ持込價ヲ取立ルハ此限ニアラス

一 締盟各國驛遞局ハ今後細目規則ニ定ムル期限ニ至リ各其郵便局ニ於テ拂渡タル金額ト爲換振出ニ付取立タル手数料ヲ記載セル計算書ヲ調製スルヘシ而シテ此計算書ハ五ニ調査審定ノ上特別ノ約束アルモノヲ除クノ外該細目規則ニ定ムル期限中ニ借越トナリタル驛遞局ヨリ越國ノ貨幣ヲ以テ其殘額ヲ仕拂フヘシ  
 二 爲替金拂渡ニ用ヒタル貨幣其種類ヲ異ニスルトキハ其額ノ少ナル貨幣ヲ其額ノ多キモノニ引直スルヘシ但計算期限中借越國都府ニ於ケル兩換平均相場ヲ以テ引直ノ基礎トス  
 三 定期中ニ計算ノ殘額ヲ仕拂ハサルトキハ其期限ヲ過ルル日ヨリ其仕拂ヲナス日迄利子ヲ附スルヘシ此利子ノ割合ハ一年五分ト定メ仕拂ヲ延滞シタル驛遞局ノ借高トシテ次期ノ計算書中ニ記入スヘシ

第五條

一 郵便爲換トナシタル金額ハ之ヲ受取人又ハ其代理人ニ拂渡ス迄差出人ニ對シ保證スルキモノトス  
 二 郵便爲換トシテ各驛遞局ニ預リタル金額ハ振出國ノ法律若クハ規則ヲ以テ定メタル期限内ニ其所有權アルモノ、請求ヲキトキハ之ヲ振出シタル驛遞局ノ所得ニ歸スヘシ

第六條

締盟各國ハ從來存スル所ノ特別約定ヲ維持シ或ハ新ニ之ヲ締結シ又ハ電信ヲ以テ爲換ヲ執行スル等其他萬國郵便爲換ノ事業ヲ改良スルノ目的ヲ以テ從來存スル所ノ親密ナル聯合ヲ

維持シ或ハ新ニ之ヲ締結スルモ此約定ニ定ムル所ノ條款ハ其權理ヲ制限セサルモノトス

第七條

各驛遞局ハ萬國爲換事務ヲ停止セサルヲ得サル非常ノ事故アルトキハ全體或ハ其一部分ヲ一時停止スルヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ其趣ヲ速ニ關係ノ驛遞局ヘ報知スヘシ又至急ヲ要スルトキハ電信ヲ以テ報知スヘシ

第八條

現今此約定ニ加盟セサル聯合諸國ハ其請求ニ依リ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第十條ニ掲載スル萬國郵便聯合ニ加盟ノ手續ニ隨ヒ之ニ加入スルヲ得ヘシ

第九條

締盟各國驛遞局ノ前數條ニ據リ爲換ノ受拂ヲ取扱フヘキ郵便局ヲ指定シ爲換遞送ノ方式並ニ第四條ニ掲クニ計算ノ式其他此約定實施ニ必要ナル細目ノ方法ヲ定ムルヲ得ヘシ

第十條

締盟各國ノ驛遞局ハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第十九條ニ掲ケタル會議ノ期ニ至ラサル迄總理局ヲ經テ他ノ締盟驛遞局ニ對シ郵便爲換事務ニ關スル發議ヲナスノ權アリ但左ノ同意ヲ得ザルニテ實行スルヲ得ス

合全體ノ同意

第一 此ノ約定第一條第二條第三條第四條第十條及第十一條ヲ變更セントスルトキハ聯

第三 此約定條款ノ解說ニ關スルトキハ單ニ過半數ノ同意

右第一第二兩項ノ場合ニ於テハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約第二十條ノ末項ニ掲ケル方式ニ隨ヒ外交上ノ申告狀ヲ以テ之ヲ確認シ第三項ノ場合ニ於テハ同條ニ據リ驛遞局ヘノ通知ヲ以テ認可スヘシ

第十一條

一 此約定ハ千八百七十九年四月一日ヨリ實施スヘシ

二 此約定ハ千八百七十八年六月一日締結ノ條約ト同時ニ批准ヲ受ケ且之ト同一ノ期限ヲ有スヘシ但各國ハ瑞西聯邦政府ヘ一個年前其趣ヲ通知セハ此約定ヨリ脫スルノ權アリトス

三 同盟諸國ノ政府若シハ其驛遞局ノ間ニ取結ヒタル約束ニシテ第六條ニ掲ケタル權アルモノヲ除ク外此約定ノ條款ニ抵觸スルモノハ此約定實施ノ日ヨリ廢止タルヘシ

四 此約定ハ可成速ニ批准ヲ受ケ巴里ニ於テ互ニ之ヲ交換スヘシ

此約定ヲ確認セシ爲メ前掲各國ノ全權委員ハ千八百七十八年六月四日巴里ニ於テ此約定ニ記名スルモノナリ

日耳曼

(ドクトル、スタファン、ガント、サツシ)

澳地利

デューク

洪葛利

セルヴィ

白耳義

シエト、ヴァンシヤン  
エフ、ジ、フ

丁抹

シウ

埃及

エ、カイヤルド

佛蘭西

レオン、セ  
アド、コ、ウ、リ  
ア、メ、ス、エ、イ

佛朗西諸殖民地

エ、ロ、ア、イ

伊太利

ウー、ビ、ダンテ、オ

歷山堡

ウ、ヒ、ド、ロ、イ、ア

那威

チ、ア、リ、ス、ヘ、フ、チ、イ

和蘭

ホ、フ、ス、テ、ツ、ト

葡萄牙

パ、ロ、ン、ス、ウ、イ、ル、ツ、ド、ラ、ン、ダ、ス、ウ、サ、ボ、ール

羅馬尼亞

ウ、ア、ド、パ、ロ、ス

瑞典

シ、エ、フ、ロ、ベ、ス、コ

瑞西

ウ、エ、ル、ゲ、ア、ン

日耳曼亞然的音共和國、澳地利、洪葛利、白耳義、伯西兒、バルガリア、智利、丁抹及同領アンナル諸島、及び空カ其共和國、埃及、佛蘭西其殖民地、伊太利、日本、歷山堡、和蘭、波斯、葡萄牙及其殖民地、羅馬尼亞、瑞典、那威、瑞西、ウ、ル、グ、ウ、エ、チ、ス、エ、ラ、及、ラ、サ、ベ、リ、ア、共、和、國、ノ、間、ニ、締、結、セ、ル、郵、便、為、換、交、換、約、定、リ、里斯本府追加書、

下ニ記名セリ前掲諸國政府ノ全權委員ハ千八百七十八年六月一日巴里ニ於テ締結シタル條約第十三條及第十九條ニ據リ爰ニ大會議ヲ里斯本府ニ開キ相互ニ協議ヲ遂ケ更ニ批准ヲ要スヘキ事ヲ議シテ左ノ追加書ヲ決定セリ

第一條

郵便為換交換ニ關スル千八百七十八年六月四日ノ約定ニ修正ヲ加フルコト左ノ如シ

第三條第三項及第四項ノ間ニ一項ヲ追加シ本條ヲ修正ス

第三(乙) 郵便為換差出人ハ振出國ニ於テ書留郵便到達證ニ課スル手数料ト同様ノ定稅ヲ預メ振出國ノ郵便局ニ拂込ムニ於テハ該為換券拂渡ノ通知書ヲ受ルコトヲ得ヘシ但シ此手数料ハ振出國ノ所得ニ歸スヘシ

第三條及第四條ノ間ニ左ノ新條ヲ加フ

第三條(乙)

官令月報第貳號

明治十九年二月分

一 郵便爲換ハ電信ヲ以テ送付スルコトヲ約定セル郵遞局ノ間ニ於テハ此方法ニ依  
テ送付スルコトヲ得ル此場合ニ於テハ之ヲ電信爲換ト云フ

二 電信爲換差出人ハ左ノ手数料ヲ拂フヘシ  
第一 郵便爲換通常手数料

第二 電信料

三 電信爲換ハ通常ノ電信ト同シ且之ニ均シキ取扱ヲ以テ至急照校及別配達者  
郵便配達ノ手数料經ルコトヲ得ル又爲換受領證書ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

四 電信爲換ハ本條ニ定メタル費用若クハ萬國電信規則ニ準據シテ徵收スルモノ  
外一切ノ費用ヲ課セズハ

第四條第一節正貨及文字ハ金貨ト改ム

第六條左ノ通改正スルハ  
締結各國ニ從來存スル所ノ特別約定ヲ維持シ或ハ新ニ之ヲ締結シ又ハ其他萬國郵便  
爲換ノ事務ヲ改良スル目的ヲ以テ尙一層親密ナル聯合ヲ保持シ或ハ之ヲ締結スル  
モ本約定ニ定メタル所ノ條項ハ其權限ヲ越スルモノトス

第十條ノ第二項第三項ハ左ノ如ク修正ス

第一 本約定第一條第二條第三條第三條(乙)第四條第十條及第十一條ヲ變更セント  
スルトキハ全聯合諸國ノ同意

第二 第一條第二條第三條第三條(乙)第四條第十條及第十一條ヲ除キ其他ノ項目ヲ  
變更セントスルトキハ聯合諸國三分ノ二以上ノ同意

第三條

一 此追加書ハ千八百八十六年四月一日ヨリ實施スヘシ  
此ノ追加書ハ可成速ニ批准ヲ受ケ其批准書ハ里斯本府ニ於テ之ヲ交換スヘシ  
右證書ノ爲メ前掲諸國ノ全權委員ハ千八百八十五年三月二十一日里斯本府ニ於テ此追加書  
ニ記名スルモノナリ

日本 野村靖

日耳曼 サツシユ

亞然的音共和國 フリツシユ

澳地利 エフ、ビー、ハンセン

洪曠利 ドウエズ

白耳義 ヴハルワエズ

伯西兒 シエルヴエー

ユフ、ギーフ

ルイズ、シー、ビー、ギマラーズ

バルガリア

アール、イウノフ

智利

エム、マルチチズ

丁抹及全島領アンチール諸島

ロンド

ドミニカ共和國

埃及

ダブルユ、エフ、ハルトン

佛蘭西

ラブウレイ

佛蘭西殖民地

ア、ベスニエー

伊太利

ラブウレイ

雁山堡

シユ、リシヤールド

和蘭

ホフステード、  
ビー、スウキルツ、ト、ランダス、ウイボルク

波斯

葡萄牙

キレルミノ、オウガスト、ド、パロス

葡萄牙殖民地

エルチスト、マ、デイラ、ピント

羅馬尼亞

ギレルミノ、オウガスト、ド、パロス

瑞典

シヨ、ン、ギカ

那威

ダブルユール、ス

瑞西

ヘラルド、アツシユ

ウルグワイ

エド、ホーン

ヴェネチア

エンリック、クブリー

ラサペリヤ共和國

コソト、サンマルチー

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝阼ヲ踐ミタル日本國皇帝御名此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
明治十一年(千八百七十八年)六月四日佛蘭西國巴里府ニ於テ締結セル萬國郵便爲換約定ニ  
追加スル爲メ明治十八年(千八百八十五年)三月二十一日葡萄牙國里斯本府ノ萬國郵便聯合  
會議ニ於テ右同盟各國全權委員ノ記名シタル約定書ヲ朕親ヲ閱覽點檢セルニ能ク朕カ意ニ  
適シ間然スル所ナキヲ以テ之ヲ嘉納批准シ日本國ニ於テ之ヲ履行遵守セシムルコトヲ茲ニ  
約ス

神武天皇即位紀元二千五百四十六年

明治十九年一月十五日東京宮中ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名

國璽

奉

勅

外務大臣伯爵井上馨

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

●布告第四號

明治十五年<sup>正月</sup>第五拾九號布告郵便條例第十六條及第二百十四條中左ノ通改正ス

第十六條

第一項ヲ改メ左ノ二項トナス

一 毒藥、劇藥、爆發燃燒シ易キ物品

一流動物、流動腐敗シ易キ物、鮮化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等ハ郵便

物ヲ傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケ

ル後郵便ニ差出スモノハ此限ニアラス

第二百十四條

第三項ヲ改メ左ノ二項トナス

一流動物、流動腐敗シ易キ物、鮮化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便

物ヲ傷害スヘキ物品

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

明治十九年二月十日

奉勅

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文  
逓信大臣 榎本武揚

●布告第五號

明治十七年三月第八號布告海軍治罪法第七條中東京軍法會議ハ當分ノ内之ヲ閉鎖シ該會議ノ權限ニ屬スル事件ハ鎮守府軍法會議ノ審判ニ付ス

明治十九年二月十日

奉勅

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文  
海軍大臣 伯爵西郷從道

●布告第六號

陸軍治罪法中左ノ通加除改正ス

明治十九年二月十七日

奉勅

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文  
陸軍大臣 伯爵大山巖

第八條審事審事補ノ五字ヲ削ル

第九條改正

軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長トナシ尉官四名ヲ以テ判士官トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更換ス

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉若クハ中尉 二名	陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬
同	大尉 二名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
同	中尉	同等ノ軍人軍屬

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)



大佐若クハ一名	少佐	二名	陸海軍大尉及ヒ
大佐	中佐	同	陸海軍少佐及ヒ
少將	大佐	同	陸海軍中佐及ヒ
中將	少將	同	陸海軍大佐及ヒ
中將	中將	同	陸海軍少將及ヒ
大將	大將	一名	陸海軍中將及ヒ
大將	大將	三名	陸海軍大將及ヒ
大將	大將	二名	陸海軍大將及ヒ

第十一條審事ノ二字ヲ削ル

第二十六條以下各條中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第三十六條第一項改正

司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外審判ノ命令ヲ下シ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十七條第三十八條中審判ノ二字ヲ審判ニ改ム

第四十四條理事ヲ經テノ五字ヲ削ル

理事審問ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直チニ之ヲ審問ス可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條改正

理事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サズニテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ意見書ヲ作り會議ノ日時ヲ定メ訴訟文書ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ其事件不同ニ付ス可キモノハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十五條削除

第五十六條改正

軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事各其席ニ着キタル後判士長被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ詢問ヲナサシム可シ

第六十三條第二項第三項改正

法廷ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直チニ其裁判ヲナシ若クハ會議ヲ中止シ理事ニ移シテ其審問ヲナサシム可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ判士長之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十五條第六十九條錄事ノ上理事ノ二字ヲ加フ

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

●達第八號

明治七年〔六月〕太政官第七拾九號達ヲ廢ス

省院廳府縣

明治十九年二月三日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

●達第九號

明治十八年〔七月〕太政官第三拾四號達警視廳職制中各局ノ課長及ヒ警察署々長ノ項左ノ通

省院廳府縣

改正ス

明治十九年二月一日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

奉 勅 課長 警視廳ヲ以テ之ニ充ツ  
警察署

署長 三等警視四等警視五等警視若シハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

●達第十號

統計ノ材料ヲ改良シ其調査ノ整頓ヲ速ニスル爲メ各省院廳ノ統計或ハ報告ヲ主管編製スル局課ノ長一名ヲ以テ統計主任トナシ常ニ内閣統計局ト協議シ事務ノ便利ヲ計ルヘシ

省院廳府縣

明治十九年二月十五日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

●達第十壹號

明治十六年〔八月〕太政官達第三拾五號ヲ廢ス

省院廳府縣

明治十九年二月十七日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

●達第十貳號

臨時建築局ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ諸官衙及議院等建築ノ事ヲ掌ラシム

省院廳府縣

明治十九年二月十七日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

奉 勅 總裁 一人 勅任  
事務官 奏任  
屬 判任

●達第十參號

明治十四年〔十二月〕太政官第百拾壹號達ニ左ノ但書ヲ追加ス

北海道廳府縣〔東京府ヲ除ク〕

明治十九年二月二十四日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

奉 勅 但シ巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得

●閣令第壹號

非職官吏ノ俸給下渡住居移轉及商業ニ關シ左ノ通之ヲ定ム

各官廳

明治十九年二月二十七日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文

第一條 凡ソ非職官吏ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ

第二條 本屬長官ハ非職官吏ノ官等俸給氏名住所及非職ノ年月日等ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第三條 非職官吏ハ本屬長官ニ届出テ本屬官廳所在ノ地ノ外ニ住居スルコトヲ得

第四條 本屬長官前條ノ届出ヲ受ケタル時ハ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣之ヲ地方官ニ通知シ該廳ヲ經由シテ俸給ノ下渡ヲナスヘシ

第五條 非職官吏移轉地ニ到着シタルトキハ其住所ヲ本屬長官及地方官ニ届出ヘシ嗣後更ニ其住所ヲ移轉スルトモ亦同シ

第六條 非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

●宮内省

●達第壹號

宮内省官制ヲ定ムルコト左ノ如ク

省院廳府縣

明治十九年二月四日

宮内大臣 伯爵 伊藤博文

宮内省官制

宮内大臣

帝室ノ事務ヲ總判シ宮中職員皇族職員ヲ統督シ華族ヲ管理スルコトヲ掌ル

宮内次官 一人 勅任

大臣ヲ輔ケ省務ヲ整理ス大臣事故アルトキハ之ヲ代理スルコトヲ得

書記官 六人 奏任

秘書官 一人 奏任

内事課長 一人 奏任

課長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

課次長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

省府官

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

外事課

課長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

帝室外交ノ事ヲ掌ル

課次長 一人 書記官ヲ以テ之ニ充ツ

侍從職

侍從長 一人 勅任

常侍奉仕シ及侍從内豎ヲ監督スルコトヲ掌ル

侍從 奏任

常侍奉仕ス

侍從試補 奏任

内豎 奏任

屬 判任

式部職

長官 一人 勅任

帝室ノ祭典儀式雅樂ノ事ヲ總掌ス

次官 一人 勅任

式部官 奏任

禮式ヲ掌ル

判任

掌典長 一人 勅任

掌典 奏任

祭典ヲ掌ル

掌典補 判任

雅樂長 一人 式部官掌典ノ内ヨリ之ヲ兼ス

式部長官ニ屬シ雅樂師長以下ヲ監督ス

雅樂師長 一人 奏任

雅樂師副長 一人 奏任

雅樂師 判任

雅樂手 判任

雅樂生 等外

皇太后宮職

大 夫 一人 勅任

亮 一人 奏任

屬 判任

皇后宮職

大 夫 一人 勅任

亮	一人	奏任
大膳職	一人	勅任
大膳夫	一人	奏任
御膳及宴饗賜饌ノ事ヲ掌ル	一人	判任
亮	一人	奏任
内藏寮	一人	勅任
頭	一人	奏任
帝室財務ノ事ヲ掌ル	一人	奏任
權頭	一人	奏任
權助	一人	奏任
屬	一人	判任
主殿寮	一人	勅任
頭	一人	奏任
宮殿洒掃鋪設器具及宮門管鑰防火警戒ノ事ヲ掌ル	一人	奏任
權助	一人	判任
助權助ノ内一人京都出張所長ニ充ツ	一人	判任
舍人	一人	判任
式場ノ使役ニ服ス	一人	判任
内舍人	一人	判任
宮中ノ使役ニ服ス	一人	判任
門監	一人	判任
宮門ノ開閉ヲ監ス	一人	判任
門監補	一人	判任
門部	一人	判任
門監ノ指揮ヲ受ケ宮門ノ出入ヲ檢察ス	一人	判任
消防監	一人	判任
宮中防火ノ事ヲ掌ル	一人	判任
消防監補	一人	判任
消防嚮導	一人	判任
等外	一人	判任

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

消防手 等外

圖書寮 一人 勅任

帝室ノ記録圖書及寶器美術保存ノ事ヲ掌ル

權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス

助 奏任 助アレハ之ヲ置カス

權助 奏任 判任

內匠寮 一人 勅任

帝室ノ土木工匠及庭園ノ事ヲ掌ル

權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス

助 奏任 助アレハ之ヲ置カス

權助 奏任 判任

匠師 奏任

匠手 判任

主馬手 一人 勅任

馬匹ノ調習飼養車駕乘具ノ事ヲ掌ル

權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス

助 奏任 助アレハ之ヲ置カス

權助 奏任 判任

取者 全

馬醫 全

諸陵寮 一人 奏任

諸陵ノ事ヲ掌ル

權頭 奏任 頭アレハ之ヲ置カス

助 全 助アレハ之ヲ置カス

權助 全 判任

守長 等外

守部 等外

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

御料局

長官 一人 勅任

帝室財産ノ事ヲ掌ル

主事 一人 奏任

主事補 二人 奏任

屬 判任

侍醫局

長官 一人 勅任

侍醫局ノ事務ヲ總掌ス

侍醫 勅任又ハ奏任

診候及宮中衛生ノ事ヲ掌ル

醫員 判任

藥劑師 全

屬 全

調度局

局長 一人 奏任

御服調度及宮中需用物品ノ事ヲ掌ル

華族局

局長 官 一人 勅任

華族管理ノ事ヲ掌ル

主事 一人 奏任

主事補 二人 奏任

皇族職員 判任

親王家別當 一人 勅任

親王ノ家事ヲ掌ル

家令 一人 奏任

家扶 判任

家從 判任

●達第貳號

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治十九年二月十日

奉勅

宮内大臣伯爵伊藤博文

第一條 華族女學校ニ左ノ職員ヲ置ク

長

學監

幹事

教授

助教

書記

第二條 長一人勅任トシ宮内大臣ノ命ヲ受ケ學校ノ事ヲ總理ス

第三條 學監一人奏任トシ長ノ命ヲ受ケ教授及校中ノ事務ヲ監督ス

第四條 幹事二人奏任トシ長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ幹理ス

第五條 教授ハ奏任トシ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條 助教ハ判任トシ教授ノ職掌ヲ助ク

第七條 書記ハ判任トシ長及幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第八條 女學校職員等及及給金ノ定メ

長 勅任	俸 年	三千圓	二千五百圓																	
學監奏任	同	八百圓	五百圓	二千																
幹事奏任	同	七百圓	六百圓	四百圓																
教授奏任	同	八百圓	五百圓	二千	千	千	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓								
助教判任	同	四百圓	三百圓	二百圓	五十圓	二百圓														
書記判任	俸 月	二十圓	十五圓	十二圓																



警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)
警視廳	府	東京府	除	警視廳	府縣(東京府)

# ● 內務省

## ● 達甲第貳號

明治十四年(九月)當省乙第四拾七号達河港道路橋梁其他修築工費總計帳及金高帳書式ノ儀別冊ノ通改正ス明治十八年度ヨリ右ニ照準調製シ翌年度九月三十日迄ニ當省ニ差出スヘシ(別冊ハ畧ス)

右相達ス

內務大臣 伯 爵 山 縣 有 朋

## ● 達甲第三號

明治十六年(二月)當省乙第壹號達ハ廢止ス

警視廳 府縣(東京府)

右相達ス

明治十九年二月二日

內務大臣 伯 爵 山 縣 有 朋

## ● 達第貳號

明治十七年(三月)兩省第四号達ニ據リ茶業組合規約認可ノ上農商務省ニ届出ノ處自今取締所ニ係ルモノ、外ハ届出ニ及ハス

府 縣

追加

第三項 製茶検査法ヲ設ク其正否ヲ鑒別スル

明治十九年二月十五日

內務大臣 伯 爵 山 縣 有 朋  
農商務大臣 子 爵 谷 干 城

● 官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

●達甲第四號

徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ監獄則第五十八條ニ依リ申報シ及ヒ該囚徒拘禁中死亡セルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後總テ其儀ニ及ハス但變死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

明治十九年二月二十日

內務大臣伯爵山縣有朋

●達乙第壹號

其監拘禁ノ囚徒死亡スルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後其儀ニ及ハス但變死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

明治十九年二月二十日

內務大臣伯爵山縣有朋

●告示第六號

明治十八年十月當省第五拾六號告示醫術開業試驗舉行地ノ内其期日左ノ通改正ス

明治十九年二月一日

內務大臣伯爵山縣有朋

六月五日

宮城縣下仙臺

五月十二日

長崎縣下長崎

●達甲第五號

明治十七年十一月當省乙第四拾号達中第拾五條ヲ删除ス

明治十九年二月二十三日

內務大臣伯爵山縣有朋

北海道廳 府 縣

●達甲達六號

明治十五年六月番外達警察聯合會規則及十六年三月番外達府縣聯合衛生會規則ヲ廢ス

明治十九年二月二十五日

內務大臣伯爵山縣有朋

●告示第七號

一 醫師產婆藥舖開業免狀紛失盜難ノ件  
一 阿片特許及製造鑑札紛失盜難ノ件  
一 製藥免許鑑札紛失盜難ノ件  
一 版權免許證紛失盜難ノ件

右自今告示セス官報ヲ以テ廣告スヘシ

明治十九年二月二十五日

內務大臣伯爵山縣有朋

●達甲第七號

明治十五年七月第四拾壹号公達巡查看守給助例ノ儀未ダ施行セサル地方モ有之候處明治二十年度ヨリ施行スヘシ

明治十九年二月二十六日

內務大臣伯爵山縣有朋

大藏省

●告示第拾貳號

依願職務差免

須賀川第百八國立銀行跡引受人 深澤 昭孝

右告示ス

明治十九年二月三日

大藏大臣 伯爵松方正義

●告示第拾三號

金祿公債證書 百圓 丙わ號 (參壹五參番、參貳參四番) 貳枚

右ハ大坂府平民石田宇三郎記名ノ分所在不分明ノ旨届出ニ付明治十八年(四月)當省告示第五拾七号ヲ以テ該証書ノ取引ヲ停止候内今般兵庫縣下ニ於テ發見ノ旨届出ニ付解停ス

右告示ス

明治十九年二月四日

大藏大臣 伯爵松方正義

●告示第拾四號

新公債証書 五拾圓 め印

貳七五貳番 壹枚

同 貳拾五圓 り印

壹六壹貳番 四枚

同 同 乙印

壹六壹七番 四枚  
壹六壹九番 四枚  
貳七八番 貳枚  
貳八壹番 貳枚

●官命月報第貳號

(明治十九年二月分)

大藏省  
壹拾

右ハ京都府平民岡田九カ所有ノ處明治十八年十二月十三日夜盜難 (例文畧ス)  
右告示ス

明治十九年二月四日

大藏大臣伯爵松方正義

●告示第拾五號

金祿公債證書 百圓 丙イ号 參四四八番 一枚

右ハ佐賀縣士族杉野米吉記名ノ分同縣下佐賀郡蓮池村小森嘉兵衛ノ預ケ中嘉兵衛宅ニ於テ紛失 (例文畧ス)  
右告示ス

明治十九年二月四日

大藏大臣伯爵松方正義

●告示第拾六號

金祿公債證書 百圓 丙イ號 四七參壹番 壹枚

右ハ兵庫縣士族村野要三所有ノ分盜難ノ旨届出ニ付明治十八年七月當省告示第百七号ヲ以テ該證書ノ取引ヲ停止候處今般大坂府下ニ於テ發見ノ旨届出ニ付解停ス  
右告示ス

明治十九年二月十日

大藏大臣伯爵松方正義

●告示第拾七號

金祿公債證書 五百圓 丙イ號 四四〇七番 壹枚

右ハ兵庫縣士族川上茂吉所有ノ處自宅ニ於テ紛失 (例文略ス)  
右告示ス

明治十九年二月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

●告示第拾八號

新公債金札引換公債舊神官配當祿公債證書發行條例ノ旨趣ニ據リ本年度ニ於テ新公債償還元金六万五千七百七拾五圓ノ數百七拾三本内壹本當リ鐵金札引換公債償還元金六千六百圓ノ分貳万三千貳百圓十三年發行ノ分五万七千四百圓十四年發行ノ分壹万貳千圓十五年發行ノ分八千四百圓各鐵ノ數九拾九本宛内貳本宛當リ闊七年發行ノ分壹万三百圓十六年發行ノ分七千五百圓各鐵ノ數五拾本宛内壹本宛當リ鐵舊神官配當祿公債償還元金貳万四百圓鐵ノ數十七本内三本當リ鐵ト定メ目今証書ノ所轄高最多キ東京府廳ニ昨十二日主務ノ官員出張同府下ニ於テ証書所持高多額ナル者三拾五名ヲ撰ミ全國証書所持人ノ總代トシテ立會ハセ一同ノ眼前ニ於テ抽籤執行セシ處當リ鐵左記ノ通り

新公債證書當籤

第七拾八籤

金六万五千七百七拾五圓

内譯

ひ印	五百圓	自三七七六番	貳拾四枚	此金壹万貳千圓
く印	三百圓	自三七九九番	貳拾八枚	此金八千四百圓
		自三七九九番		
		自三七九六番		

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

但貳百八枚ハ無効ニ付扣除ス  
拾四枚 此金四千貳百圓

ナ印 百圓 自三三四九番 百貳拾八枚 此金壹万貳千八百圓  
至三四七六番

の印 五拾圓 自貳四三九番 貳百三拾九枚 此金一万千九百五拾圓  
至三〇六壹番

フ印 貳拾五圓 自壹六壹番 四百八拾九枚 此金壹万貳千貳百貳拾五圓  
至壹八三五番 但千八百八拾六枚ハ無効ニ付扣除ス

明治六年發行金札引換公債證書當籤

第四拾三籤

金壹万千六百圓

内譯

シ印 五百圓 自四貳八番 九枚 此金四千五百圓  
至四三六番

百圓 自三六六四番 四拾枚 此金四千圓  
但六拾八枚ハ無効ニ付扣除ス

シ印 五拾圓 自八貳〇四番 六拾貳枚 此金三千百圓  
至八三七〇番

但百五枚ハ無効ニ付 除ス

第四拾八籤

金壹万千六百圓

内譯

シ印 五百圓 自四八九番 九枚 此金四千五百圓  
至四九七番

百圓 自三四六四番 四拾枚 此金四千圓  
至三五〇三番

シ印 五拾圓 自八六壹九番 六拾貳枚 此金三千百圓  
至八六八〇番

明治七年發行金札引換公債證書當籤

第三拾九籤

金壹万三百圓

内譯

シ印 五百圓 自八八九番 拾九枚 此金九千五百圓  
至九〇七番

百圓 自壹壹五四番 八枚 此金八百圓  
至壹壹六七番

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

明治十三年發行金札引換公債証書當籤

第六拾籤

金貳萬八千七百圓

內譯

比印 五百圓

自壹三八貳六番  
至壹三八四九番

貳拾四枚

此金壹萬貳千圓

比印 百圓

自八六壹貳番  
至八七〇番

百五拾九枚

此金壹萬五千九百圓

比印 五拾圓

自九五五五番  
至九五七〇番

拾六枚

此金八百圓

第九拾六籤

金貳萬八千七百圓

內譯

比印 五百圓

自壹四八壹五番  
至壹四八三九番

貳拾五枚

此金壹萬貳千五百圓

比印 百圓

自五九五番  
至七四七番

百五拾三枚

此金壹萬五千三百圓

比印 五拾圓

自貳〇七五番  
至貳〇七八番

六拾八枚

此金九百圓

明治十四年發行金札引換公債証書當籤

第七拾籤

金六千五百圓

內譯

比印 百圓

自四六〇四番  
至四六六三番

六拾枚

此金六千圓

比印 五拾圓

壹七五四番

壹枚

此金五拾圓

第八拾五籤

金六千五百圓

內譯

比印 百圓

自五四八八番  
至五五四七番

六拾枚

此金六千圓

比印 五拾圓

壹四〇貳番

壹枚

此金五拾圓

明治十五年發行金札引換公債証書當籤

第六籤

金四千貳百圓

內譯

比印 五百圓

六番

壹枚

此金五百圓

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

〜印 百圓 自三八壹七番 至三八五貳番 三拾六枚 此金三千六百圓

〜印 五拾圓 壹壹番 壹貳番 貳枚 此金百圓

第九拾壹錢

金四千貳百圓

內譯

〜印 百圓 自三三三番 至三七四番 四拾貳枚 此金四千貳百圓

明治十六年發行金札引換公債証書當錢

第貳拾八錢

金七千五百圓

內譯

〜印 百圓 自壹六貳六番 至壹七〇〇番 七拾五枚 此金七千五百圓

舊神官配當祿公債証書當錢

第五錢

金六千八百圓

〜印 百圓 自三五壹番 至五壹貳番 四拾七枚 此金四千七百圓

但百十五枚ハ無効ニ付扣除ス

〜印 五拾圓 自六七壹番 至七五八番 貳拾七枚 此金千三百五拾圓

但六拾壹枚ハ無効ニ付扣除ス

〜印 貳拾五圓 自貳貳壹番 至三貳壹番 三拾枚 此金七百五拾圓

但七拾壹枚ハ無効ニ付扣除ス

第七錢

金六千八百圓

內譯

〜印 百圓 自五六〇番 至九〇貳番 四拾七枚 此金四千七百圓

但貳百九拾六枚ハ無効ニ付扣除ス

〜印 五拾圓 自四六三番 至六四三番 貳拾七枚 此金千三百五拾圓

但百五拾四枚ハ無効ニ付扣除ス

〜印 貳拾五圓 自三五貳番 至五六五番 三拾枚 此金七百五拾圓

第拾四號

但百八拾四枚ハ無効ニ付扣除ス

金六千八百圓

内譯

は印	百圓	自壹三八〇番	四拾七枚	此金四千七百圓
ろ印	五拾圓	自壹七貳番	貳拾七枚	此金千三百五拾圓
い印	貳拾五圓	自八六七番	三拾枚	此金七百五拾圓
		至八九六番		

前書立會人ニ於テ抽籤方法ノ公平正實ナルヲ保証ノ上確定候條此旨相心得該記號番號ノ  
 証書所持ノ者ハ速ニ所轄廳ニ申出ヘシ所轄廳ニ於テハ所持人ノ申出ヲマタス豫テ設備ノ簿  
 冊ニ依據シ該證書ノ記號番號種類金高枚數等詳細調査シテ當籤表ヲ製シ元金受取方往復ヲ  
 除クノ外日數十日限リ當省ニ申出ヘシ

但此告示所轄廳ニ到達以後ハ當籤ノ證書讓渡賣渡等ノ檢印ヲ停止ス  
 右告示ス

明治十九年二月十三日

大藏大臣 伯爵松方正義

達第拾壹號

客年(十一月)當省第七拾四号達別冊報告表離形第貳拾三号貳拾四号貳拾八号貳拾九号三拾  
 壹号三拾四号別冊ノ通改正候ニ付明治十八年度ヨリ右ニ照準調製翌年度四月十五日限リ主  
 稅局ニ差出スヘシ  
 右相達ス

明治十九年二月十二日

大藏大臣 伯爵松方正義

達第拾貳號

収稅課職員左ノ書式ニ倣ヒ本年三月以下毎月末日ノ總現員取調翌月十日限リ該地差出主稅  
 局ニ報告スヘシ

但明治十八年三月當省第拾三號達ハ自今廢止ス

(書式ハ略ス)

明治十九年二月十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

達第拾三號

明治十六年六月太政官第拾八号ヲ以舊煙草五厘壹錢五錢印紙當分新舊取交使用スヘキ布達  
 ノ趣モ有之處該印紙賣捌殘餘ノ分ハ不取締無之様左ノ手續書ニヨリテ燒却取計其結了ノ趣  
 届出ヘシ

明治十九年二月十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

烟草印紙燒却手續書

(明治十九年二月分)

官令月報第貳號



一 舊烟草五厘壹錢五錢印紙郡區役所等賣捌殘餘ノ分ハ悉皆府縣廳へ取廻ムヘシ  
一 郡區役所等ヨリ取廻メ濟ノ上ハ〔府縣〕廳殘餘ノ分ト合算シ計算表殘高ト對照シ相違ナキ  
ヲ見認メ適宜枚數ヲ定メ封包ノ上主任者及收稅長立會封印スヘシ  
一 前二項ノ手續了セバ府縣廳構内適宜ノ場所ヲ撰ミ主任者及收稅長立會ノ上燒却スヘシ  
一 燒却濟ノ上ハ種類枚數年月日ヲ記載シ長官名印ヲ以テ申報スヘシ

● 達第拾四號 府縣 〔神繩縣ヲ除ク〕  
府縣徵稅費ノ出納ニ要スル補助簿樣式別冊ノ通リ相定候條十九年度ヨリ施行スヘシ

但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス

明治十九年二月十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

● 告示第拾九號

金祿公債證書 五百圓 丙ハ號 〔四七〇五番六貳貳貳番〕 貳枚

右ハ大坂府平民岡田トク所有ノ分盜難ノ旨届出ニ付明治十八年〔十二月〕當省告示第百五拾六號ヲ以テ該證書ハ取引ヲ停止候處今般同府下ニ於テ發見ノ旨届出ニ付解停ス

右告示ス

明治十九年二月十八日

大藏大臣 伯爵松方正義

● 達第拾五號

明治十八年〔十一月〕當省第七拾四號達租稅表及報告表調理順序附屬諸表樣式及進達期限一

明治十九年二月二十三日

大藏大臣 伯爵松方正義

● 告示第貳拾號

金祿公債證書 千圓 乙ハ號 八九六九番 壹枚

同 拾圓 乙ハ號 八壹參〇番 貳枚

同 百圓 丙ハ號 六參四貳番 壹枚

同 百圓 丙ハ號 八參貳七番 壹枚

同 百圓 丙ハ號 壹參六〇番 壹枚

同 五拾圓 丙ハ號 六六五參番 壹枚

同 五拾圓 丙ハ號 貳七八四番 壹枚

同 貳拾五圓 丙ハ號 貳六八八番 壹枚

同 貳拾五圓 丙ハ號 六壹九八番 壹枚

右ハ京都府士族津田正實所有ノ分盜難ノ旨届出ニ付本年一月告示第貳號ヲ以テ該證書ノ取引ヲ停止候處今般發見ノ旨届出ニ付解停ス

明治十九年二月二十四日

大藏大臣 伯爵松方正義

● 官令月報第貳號

〔明治十九年二月分〕

●告示第貳拾壹號

金祿公債證書	百圓	丙ノ號	貳參八〇番	壹枚	愛媛縣香川郡東濱村
	貳拾五圓	丙ノ號	參〇參六番	壹枚	同
	拾圓	丙ノ號	貳七七〇番	貳枚	同
	五百圓	丙ノ號	貳七七壹番	貳枚	同
	百圓	丙ノ號	貳八〇九番	壹枚	同
	貳拾五圓	丙ノ號	貳四貳〇番	壹枚	同
	拾圓	丙ノ號	參〇五六番	壹枚	同
	同	同	貳八壹〇番	貳枚	同
	同	同	貳八壹壹番	貳枚	同

右記名ノ證書本年一月二十九日夜盜難前書ノ通届出候條以後右證書一切取引ヲ爲ス可カラズ且其所在見聞ノ者ハ速ニ所在地方廳ニ訴出該廳ヨリハ即當省へ届出ヘシ

右告示ス  
明治十九年二月二十五日  
大藏大臣伯爵松方正義

●陸軍省

●達甲第貳號

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ入籍ノ者ハ自今近衛艦員ニ相定候就テハ從前近衛下士ニシテ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入替爲致在郷中ハ本籍地方所管鎮臺ノ管理ニ屬シ候條爲心得此旨相達候事

明治十九年二月十六日 陸軍大臣伯爵 大山巖  
 達甲第三號 府 縣  
 昨十八年十一月達甲第四十四號ヲ以テ陸軍獸醫部講習生召募ノ儀相達置候處詮議ノ次第有之右召募本年ノ儀ハ差止メ候條此旨相達候事  
 明治十九年二月二十三日 陸軍大臣伯爵 大山巖

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

# 海軍省

## 海軍省

### ●達丙第六號

海軍省令第一號

明治十五年(八月)丙第五十四號達海軍志願生徒身體檢査手續書第二條中(海軍及醫海軍)ヲ  
 (海軍警監一名軍醫其他)ニ(同會一座ニ於テ)ヲ(共ニ志願人ノ身體テ)ニ(スヘシ)ヲ(セシ  
 ム)ニ(改メ)第五條第六條第七條)ヲ削リ(第八條)ヲ(第五條)ニ改メ(第九條)ヲ削リ  
 明治十九年五月二日 海軍大臣伯爵西郷從道 閣

### ●達丙第七號

停年名簿編纂例左ノ通相定

明治十九年二月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

### 停年名簿編纂例

第一條 凡ソ准士官以上實役停年ノ最下期限ヲ終リタル者ヲ停年名簿ニ記列スルニハ各其  
 實役停年ノ多少ニ從ヒ之ヲ次第スルヲ法トス但實役停年及海上勤務ノ兩最下期限ヲ終  
 リタル者ハ其停年ノ多少ヲ拘ハラズ海上勤務最下期限ヲ終ラザル者ノ先ニ記列ス可シ  
 第二條 實役停年ハ就職辭令ノ日ヲ以テ起算ス可シ但官等昇進シテ尙ホ前職ニ在ル者ハ宣  
 旨若シハ辭令ノ日ヲ以テ起算ス可シ  
 第三條 實役停年ノ計算ハ日數ヲ以テス但明治五年十二月二日ハ一ヶ月ニ算ス可シ  
 第四條 實役停年同キ者ハ總テ武官名簿ノ序次ニ從フモノトス

明治十七年十一月丙第百五拾號達報條例中第八第九及第十百六表ヲ廢止スルニ付テハ其後

明治十九年二月九日

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

●達丙第拾貳號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

官名	職名	人員	官名	職名	人員	官名	職名	人員
大 中 尉	分隊長	一	一等二等	兵曹 掌砲長屬	一	一等	水兵	二
			三等	兵曹 掌帆長屬	二	二等	水兵	二
			一等二等	兵曹 掌帆長屬	二	三等	水兵	二
大 中 機 關 士	機 關 長	一	二等	木工長屬	一	一等	若水兵	二
			三等	木工長屬	一	二等	火夫	一
			一等	木工長屬	一	三等	火夫	一
			二等	木工長屬	一	四等	火夫	一
			三等	木工長屬	一			
			合計		十三人			

明治十九年二月六日

海軍大臣伯爵西鄉從道

●達丙第拾壹號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月六日

海軍大臣伯爵西鄉從道

警城艦隊備艦タルノ間其定員中左表ノ人員ヲ常置ス

●達丙第拾號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月五日

海軍大臣伯爵西鄉從道

●達丙第九號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月四日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍軍樂隊自今横須賀鎮守府所轄ト定ム

●達丙第八號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第七號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第六號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第五號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第四號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第三號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第二號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第一號

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙

海軍大臣伯爵西鄉從道

同

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

明治十九年二月一日ヲ以テ改正スル者トス

●達丙第拾三號  
下士以下黜陟乘退艦船營病院出入逃亡善行章與奪刑罰其他兵籍上ノ異動ニ係ルモノハ其都  
度下士ハ軍務局へ卒ハ横須賀鎮守府へ報告スヘシ

明治十九年二月九日  
海軍大臣伯爵西郷從道  
●達丙第拾四號  
同

明治十年〔四月〕丙第拾八號下士以下黜陟進退及艦船乘退等報告ヲ達チ廢ス  
明治十九年二月九日  
海軍大臣伯爵西郷從道

●丙第拾五號  
同  
明治十五年〔九月〕丙第七拾三號達海軍操砲程式中野砲操法及野砲隊操法ノ部ヲ廢シ更ニ海  
軍砲隊操式海軍拳銃操法別冊ノ通制定ス  
〔別冊ハ零ス〕  
明治十九年二月十日  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第拾六號  
同  
長崎海軍出張所ヲ廢シ同所ニ横須賀鎮守府武庫又倉庫ノ分庫ヲ置ク  
明治十九年二月十三日  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第拾七號  
同  
兵庫海軍出張所ヲ横須賀鎮守府倉庫分庫ト改稱ス  
明治十九年二月十三日  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第拾八號  
海軍一級  
横濱田ノ浦門司浦原ノ浦鹿兒島嚴原七尾函館室蘭小樽根室釜山浦元山津仁川ノ諸港ニ在ル  
石炭庫及東京ニ在ル倉庫ハ自今横須賀鎮守府倉庫ノ分庫トシ横須賀鎮守府倉庫某地分庫ト  
稱ス

明治十九年二月十三日  
海軍大臣伯爵西郷從道  
●達丙第拾九號  
同  
東京監獄署ヲ廢ス  
明治十九年二月十三日  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第拾號  
府  
乙第三號  
海軍一級  
丙第貳拾號  
海軍一級  
明治十八年〔七月〕乙第拾壹號達海軍艦内教授役警吏筆記採用規則中左ノ通改正刪除ス  
明治十九年二月十三日  
海軍大臣伯爵西郷從道

第二條 海軍艦内教授役海軍警吏海軍筆記ハ鎮守府ニ徵募ス但徵募ヲ要スルハ鎮守府  
豫メ之ヲ廣告ス  
第三條 但書ヲ廢ス  
第八條 學科試驗ノ科目ハ左ノ如シ  
艦内教授役  
講義 漢文歴史類 作文 漢文 漢文 數學 平算 書法 楷行  
通俗文 代數 草

●官令月報第貳號  
(明治十九年二月分)

警吏

漢文歷史類 作文 公文文 算術 加減 法律講義 刑法

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 乘除 法律講義 治罪法

漢文歷史類 作文 公文文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

漢文歷史類 作文 通俗文 算術 平算 書法 楷行

●達丙第貳拾壹號  
明治十七年三月丙第百五拾八號達海軍機關部條例ヲ廢ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第貳拾貳號  
海軍兵學校海軍機關學校小野濱海軍造船所ノ主計部ヲ計算課ト改稱ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達乙第貳拾三號  
明治十五年九月乙第九號及丙第六拾七号達海軍兵學校條例ヲ廢止ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第貳拾四號  
攝津艦ヲ廢艦トシ其船體ヲ兵學校ニ屬シ術業練習ノ用ニ供ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達乙第貳拾五號  
海軍准卒中將官從僕司令官從僕艦長從僕裁縫夫剃夫ヲ廢ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●達乙第貳拾六號  
艦船營備夫規則左ノ通定ス  
海軍大臣伯爵西郷從道

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

海軍艦船營備夫規則  
 第一條 艦船營備夫ハ同營ニ於テ検査ノ上備入スルモノトス  
 第二條 同 備夫ハ左ノ職務ニ使役ス

裁縫夫  
 剃 夫

第三條 備夫ハ年齢十九歳(從僕ハ十五歳)ヨリ三十五歳迄ノ者トス  
 第四條 艦船營ニ於テ備夫ヲ要スルトキハ廣告其他ノ方法ヲ以テ徵募ス  
 第五條 備夫二個年以内ハ自己ノ都合ヲ以テ解備ヲ請フコトヲ許サズ又職時事變及航海中  
 二個年以外ト雖モ之ヲ許サズルコトアル可シ

第六條 志願人ハ父兄其他親族或ハ後見人ヲ以テ身元引受人ト爲ス可シ但願出ノ地ニ親  
 族後見人ナキトキハ其地ニ本籍アリ身元正確ナル者ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第七條 身元引受人ハ第壹號書式ノ願書ニ本人ノ履曆書ヲ添ヘ各艦船營ニ出ス可シ  
 第八條 左ニ掲グル者ハ備夫ニ採用セス

- 一 陸海軍諸兵ノ豫備後備兵役ニ在ル者及ヒ先入兵タル者
- 二 陸海軍兵ノ補充員タル者
- 三 刑事被告人トナリ裁判未決者
- 四 公欄停止中ノ者

五 重罪ノ刑ニ處セラレタル者

第九條 備夫ニ採用セラレタルトキハ身元引受人ヨリ第貳號書式ノ戶籍明細書ヲ出ス

第十條 備中ハ食料被服ハ總テ官給トス

第十一條 備中ハ相當ノ日給ヲ支給ス

第十二條 傷痍疾病ヲ受ケタル者備中ハ官費ヲ以テ治療セム

第十三條 艦船營ノ都合ニ依リ身元引受人ナキ地ニ於テ解備スルトキハ相當ノ旅費ヲ給

第十四條 備中公務ヲ爲ス死傷スルトキハ左ノ區別ニ依リ給助金ヲ支給ス

一 重傷死ニ至ル者ノ寡婦又ハ相續ノ孤兒ニハ一時賜金五拾圓ヲ給ス但寡婦アレハ孤  
 兒給セズ

二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未満ノ兄弟姉妹ニシテ  
 死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アル時一時賜金四拾圓ヲ給ス

三 重傷死ニ至ラサルモ終身自用ヲ辨シ能ハサル者ニハ一時賜金四拾圓ヲ給ス  
 四 自用ヲ辨シ得ルモ終身事業ヲ營ムコト能ハサル者ニハ一時賜金三拾圓ヲ給ス

第十五條 備中死没シタル者ハ卒章準シ官費ヲ以テ埋葬ス若シ親族故舊ヨリ遺骸下渡ヲ  
 願出ストキハ埋葬料トシテ金拾圓ヲ下附ス

第十六條 艦船營ニ於テ傭夫ヲ傭入又ハ傭止ヲ爲シタルトキハ所管長官ニ届出所管長官  
ハ之ヲ海軍省軍務局及會計局ニ通報ス可シ

「第一號書式」(用紙美濃紙)

何艦(船營)傭夫願

何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地 符留者ハ寄留地モ  
明細ニ記ス可シ

華士族平民

何某男或ハ弟又ハ何々

何年何月何日於

何 某

何國何(郡區)何(町村)生

年何年何月何年何月

若シ書御體(船營)何從僕或ハ何々志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ本人身元一  
切引受可申此段奉願候也

何(府縣)何國何(郡區)何(町村)何番地

華士族平民

右何某父或ハ兄又ハ何々

年 月 日

身元引受人 何 某

前書之通相違無之候也

右 戶 長

何艦(船營)長何某願

「第一號書式」

戶籍明細書

本管族籍

氏 名 (肩書ニ戶主カ二三男カ養子カ明記スヘシ)

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

寄留住所 (全戶カ單身カ明記スヘシ)

家族人名及其誕辰(父母妻子兄弟全戶ノ者總テ之ヲ記ス但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ)

父 氏名 母 氏名 兄 氏名 弟 氏名 姉 氏名 妹 氏名

何年何月何日生 同上 同上 同上 同上 同上

其他右ニ準ス

前書之通相違無之候也

右 戶 長

何 某

連 乙第七号

府 海軍一級

明治七年(八月)記三套第四拾四号同十年(九月)乙第七號及丙第百七號同十一年(十月)乙第  
八號及丙第百拾九號艦内教授役三上長及下士以下移籍改名等戶籍ニ係ル届方違テ廢ス

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)



明治十九年二月十九日

●達丙第貳拾八號

明治十七年十一月丙第百三拾八號達旗艦增員表ヲ廢ス

明治十九年二月十九日

●達丙第貳拾九號

司令長官司令官司令次官乘艦中艦ヲ構造ニヨリ左ノ人員ヲ定限トシ増員スルコトヲ得

明治十九年二月十九日

司令長官司令官ノ乘艦

少軍醫 一人

少尉補 二人

機關士補 一人

生計補 一人

兵曹 一人

筆記 一人

水兵 十八人

主廚 一人

廚夫 一人

司令長官從僕或司令官從僕 一人

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍一一般

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍一一般

海軍大臣伯爵西鄉從道

司令次官ノ乘艦

少尉補 一人

兵曹 一人

水兵 十八人

主廚 一人

廚夫 一人

司令次官從僕 一人

●丙第拾號

明治十八年十一月丙第七拾八號達旗艦須賀屯營浦賀屯營定員表中艦長從僕ヲ營長從僕ト改ス

明治十九年二月十九日

●達丙第拾壹號

明治十八年十一月丙第七拾六號達浦賀屯營條例中第七條ヲ廢ス

明治十九年二月十九日

●達丙第拾貳號

明治十七年十一月丙第八號達海軍下士以下給與概則中左ノ通改正追加ス

明治十九年二月二十日

第一條 本則ハ下士卒准卒及ヒ艦船營備夫給與ノ制限ヲ掲グルモノトス其目左ノ如シ

●官令月報第貳號

(明治十九年一月分)

- 一 俸 給
- 二 家族扶助金
- 三 雜 給

第五條 下士以下ノ日給ハ第一第二第三及第三乙表ノ如シ而シテ其服務ノ區別ニ依リ給額ニ差等アルコト第四第五第六表ノ如シ之ヲ下士ニ在リテハ在職俸卒以下ニ在リテハ在役俸ト稱ス

第八條 外國航海加俸ハ艦船外國航海中第七第八第九及第九乙表ノ金額ニ基キ第十表ノ經緯度ニ應シ之ヲ給與ス其給與法左ノ如シ

一 加俸給與ノ分界ハ初メテ内地(何レノ港ヲ問ハス)ヲ出帆ノ日ヨリ内地(何レノ港ヲ問ハス)ニ歸着初メテ投錨ノ日迄之ヲ給與ス

二 在外國ノ甲艦船ニ乗組ノ命ヲ奉シ乙艦船ニ乗組渡航スル時ハ外國行艦船乘員ニ準シ加俸ヲ給與ス

但シ乙艦船ニ於テ一時操替支給スヘシ

三 發向途中風波ニ遭遇或ハ彼ノ地ニ於テ需用品缺乏其他ノ事故ニ依リ内地各港ニ寄艦中日數三週日以上ニ至レハ外國航海加俸ヲ停止ス

第二十一條 下士以下ヲ海軍部外ノ各廳ニ貸與スル時ハ其日ヨリ歸到ノ前日迄下士ハ本給二分ノ壹卒以下ハ本給四分ノ壹ヲ給與ス但先方ヨリ職役相當ノ給料ヲ受ル者トス

第二十二條 傷疾疾病ニ罹リ入院若シハ陸地施療ノ者ハ其艦船營及ヒ各廳ヲ離レタル日ヨリ歸到ノ前日迄下士ハ本給二分ノ壹卒以下ハ本給四分ノ壹ヲ給與ス

第六

在營下士以下日給表		
職 課	定 員	員外就業者
日 給	本給全額	員外無業者
	本給四分ノ三	本給四分ノ二

備考

海軍兵學校練習所ハ本表ニ準ス

第三 (乙)

備 夫 日 給 表		
從 僕 等一	從 僕 等二	從 僕 等三
金貳拾貳錢	金貳拾錢	金拾八錢
裁縫夫 等一	裁縫夫 等二	裁縫夫 等三
剃 夫 等一	剃 夫 等二	剃 夫 等三
		從 僕 等四
		金拾六錢

第九 (乙)

備夫外國航海加俸表		
金拾壹錢	金拾錢	金九錢
從僕等一	從僕等二	從僕等三
裁縫夫等一	裁縫夫等二	裁縫夫等三
剃夫等一	剃夫等二	剃夫等三

海軍一般

●達丙第三拾三號

艦船營備夫ハ下士卒ニ準シ食料及賜酒料ヲ給ス

明治十九年二月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第三拾四號

明治十七年〔十二月〕丙第百七拾壹号達海軍造船所條例ヲ廢ス

明治十九年二月二十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達乙第九號

明治十五年〔十月〕乙第八號及丙第九拾號達海軍機關學校條例ヲ廢ス

明治十九年二月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第三拾六號

明治十九年〔九月〕丙第八拾號達掌砲證狀規則左ノ通改定ス

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

砲證狀規則

- 第一條 本則ハ砲術練習志願ノ兵曹及水兵ニシテ砲術練習艦ノ各教程ヲ卒業シタル者ニ授與ス可キ證狀ノ等種及之ニ屬スル細則ヲ掲ケタル者ナリ
- 第二條 證狀ハ一、二等掌砲二、三等掌砲ノ二級ニ區別シ官職ノ等級ニ關セズ卒業ノ成績ニ據テ之ヲ授與スル者トス
- 第三條 掌砲證狀ヲ有スル者ノ中砲術教授ニ適任ノ者ニハ砲術授適任證書ヲ授與ス
- 第四條 掌砲證狀ヲ得タル者ハ其等級ニ從ヒ左ニ記載ノ徽章ヲ右腕ニ付シ且其徽章ヲ附スル限リハ本給ノ外左表ノ金額ヲ支給ス但逃亡中ハ支給セズ
- 第五條 砲術教授適任證書ヲ有スル者艦船營砲術教授ノ職ヲ奉スル間ハ左表金額ノ外一日金三錢ノ加俸ヲ給ス
- 第六條 證狀有効ノ期限ハ證狀授與ノ日ヨリ滿五箇年トス〔不勤年數ヲモ算入ス〕故ニ滿五箇年ヲ過ルノ後ハ其證狀無効トシ之ニ屬スル徽章ヲ除キ金額ノ支給ヲ止ム但再練習志願ノ者ハ其期限中再ヒ砲術練習艦ニ乗組演習スルヲ許ス而シテ卒業スルトキハ更ニ證狀ヲ附與ス
- 第七條 證狀ヲ有スル者禁錮十一日以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證狀ヲ還納セシメ之

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

ニ屬スル徽章ヲ除キ金額ノ支給ヲ止ム但其證狀及之ニ屬スル徽章ハ軍法會議ニ於テ引上  
ケ砲術練習艦ニ返附ス可シ

第八條 證狀ヲ有スル者艦船營ノ勤務ヲ免シタルトキハ砲術練習艦員外乘組ト爲ス  
第九條 證狀ヲ有スル者ヲ轉乘セシムルトキハ砲術練習艦ニ通知ス可シ

(徽章ハ零ス)

證狀ヲ有スル者ニ給スル日給金額表

一等掌砲證狀ヲ有スル者 金 四 錢  
二等砲掌證狀ヲ有スル者 金 貳 錢

●達丙第三拾七號

海軍 一般

迅鯨艦ヲ自今雷術練習艦ト定ム

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第三十八號

海軍 一般

長浦水雷營定員表及水雷術練習艦定員表左ノ通定ム

(定員表ハ零ス)

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第三拾九號

海軍 一般

水雷術練習艦乘組員俸給加俸等ハ當分航海練習艦ニ準シ支給ス

明治十九年二月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

●達丙第四拾號

海軍 一般

明治十七年〔十二月〕丙第百七拾六號達若水兵教育概則第一條第二條第三條第五條左ノ通改  
正ス

明治十九年二月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 新募若水兵ハ屯營或ハ練習艦ニ於テ教育スルモノトス

第二條 新募若水兵入營或ハ乘艦ノトキハ之ヲ若干號ニ分チ各號凡二十名ト仮定シ讀書算  
術ノ能否ヲ區別シテ後之ヲ確定ス可シ而シテ每号兵曹又ハ適任ノ水兵一名ヲ付シ先ツ左  
ノ事項ヲ教授セシム

第一 軍人ノ姿勢及衣服ノ着裝法

第二 釣床及衣囊ノ取扱法

第三 武官ノ階級及敬禮式ノ要領

第四 屯營練習艦規則ノ要領

第三條 若水兵ノ學期ハ之ヲ四期ニ分チ一期ヲ三ヶ月トシ十二ヶ月ヲ以テ全學科卒業ノ期  
トス而シテ其課程ハ左ノ如シ (學期表ハ零ス)

第五條 若水兵ノ課程履行中ハ適宜ノ時間ヲ定メ左ノ事項ヲ教授ス

第一 軍人ノ本分即チ勅諭ノ大旨

第二 軍行章條例海軍刑法懲罰令ノ大旨

第三 海軍ノ官等及敬禮式

第四 屯營及練習艦ノ規則

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

文部省  
貳拾貳

●達乙第貳號

下士卒ノ結婚ハ自今届出ルニ及ハス

明治十九年二月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

府 縣

●文部省

●達第壹號

文部省明治十四年六月第貳拾壹號第貳拾貳號達ヲ廢ス

明治十九年二月二十三日

文部大臣 森 有禮

府 縣

文部省  
壹

●官冷月報第貳號

(明治十九年二月份)

●告示第四號  
東京府下權衡製作人守隨彦太郎儀本邦量目西洋形權衡製作賣弘方免許候條此旨告示ス  
明治十九年二月四日  
農商務大臣子爵谷干城

●告示第五號  
一岩手縣陸中國東和賀郡山口村字仙人  
銀鑲試堀假證券 試第貳千百九號  
同村平民阿部周藏外壹名〜下渡置ノ分

一岡山縣備中國川上郡七地村字ノメヲ  
銅鑲借區假證券 借第貳千九百六拾八號  
同村平民牧野策二〜下渡置ノ分

一富山縣越中國上新川郡千石村字サシヲ  
石炭借區假證券 借第貳千五百七拾號

一同郡東種村字大坂  
石炭借區假證券 借第貳千五百壹號

一同郡西種村字後口谷  
石炭借區假證券 借第貳千六百拾壹號

# 農商務省

大坂府江戸堀上通貳町目中西公康外四名へ下渡置ノ分

一同郡龜谷村字カンスケ谷外一字

銅鑛借區假證券 借第四拾七号

同村杉木善七郎外壹名へ下渡置ノ分

右證券何レモ所在不分明ノ旨届出タルニ付發見シタル者ハ速ニ管轄廳へ可届出該證券ハ無効ニ屬ス

右告示ス

明治十九年二月六日

農商務大臣子爵谷干城

●告示第六號

一根室縣千島國々後郡米戸賀村字岩老山硫黃試堀證券

明治十一年中舊開拓使ニ於テ秋田縣羽後國山本郡能代柳町平民桶川福藏へ下渡置ノ分

一根室縣根室國目梨郡榎別村字チニヤヘツ硫黃試堀證券

明治十三年十一月舊開拓使ニ於テ札幌縣石狩國札幌郡札幌振通平民福定藤次郎へ下渡置ノ分

渡置ノ分

一根室縣釧路國厚岸郡散布村字ニヤチノ外一字石炭試堀證券

明治十五年四月舊開拓使ニ於テ若手縣陸中國南若手郡大工町平民大録地榮藏へ下渡置ノ分

右證券何レモ携帶ノ儘失踪シタル旨届出タルニ付所在發見ノ者ハ速ニ管轄廳へ可届出該証券ハ無効ニ屬ス

右告示ス

明治十九年二月十日

農商務大臣子爵谷干城

●告示第七號

一株式仲買認許証 第百八拾三号

右ハ大坂株式取引所仲買人大坂府北區鹽島中壹町目二拾壹番地平民高岡吉助へ下渡置處自宅ニ於テ紛失ノ旨届出ニ付其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳へ可申出尤該認許証ハ無効ニ屬ス

右告示ス

明治十九年二月十九日

農商務大臣子爵谷干城

●告示第八號

本年第二回獸醫開業試驗舉行ノ地方及其期日左之通相定候條志願ノ者ハ明治十八年第十七号布達ニ準據シ其願書ニ試驗ヲ受ケントスル望ノ場所ヲ記載シ本年六月中居住ノ地方廳へ差出スヘシ

右告示ス

明治十九年二月十九日

農商務大臣子爵谷干城

長野縣下長野

福島縣下福島

北海道函館

八月下旬

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

九月上旬	新潟縣 下 新潟
九月中旬	山形縣 下 山形
九月下旬	宮城縣 下 仙臺
十月上旬	福島縣 下 福島
十月中旬	青森縣 下 青森
十月下旬	島根縣 下 松江
十一月上旬	鳥取縣 下 鳥取
十一月中旬	大分縣 下 大分
十一月下旬	熊本縣 下 熊本

十二月上旬	長崎縣 下 長崎
十二月中旬	山口縣 下 山口
十二月下旬	東京府 下 東京

●達第貳號ハ内務省ノ部ニアリ

●達第三號

鑛山借區稅息納者及滿一ケ年以上無故休業ノ者抗業禁止ノ儀并ニ試掘期限經過ノモノ証券引揚ノ儀ハ已來伺出ニ不及其應限リ處分シ証券引揚ケ返納ノ節其事由具申スヘシ

明治十九年二月二十四日

●達第四號

明治十六年〔七月〕當省第八号達第一項中其三以下左ノ通更正ス

明治十九年二月二十四日

- 一 農商工水産山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スル事
- 二 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノ事



●司法省

●達丁第三號

大審院 裁判所

明治十七年五月丁第拾貳号達自今廢止

右相達候事

明治十九年二月五日

司法大臣伯爵山田顯義

大審院  
 第一部長官  
 第二部長官  
 第三部長官  
 第四部長官  
 第五部長官  
 第六部長官  
 第七部長官  
 第八部長官  
 第九部長官  
 第十部長官  
 第十一部長官  
 第十二部長官  
 第十三部長官  
 第十四部長官  
 第十五部長官  
 第十六部長官  
 第十七部長官  
 第十八部長官  
 第十九部長官  
 第二十部長官  
 第二十一部長官  
 第二十二部長官  
 第二十三部長官  
 第二十四部長官  
 第二十五部長官  
 第二十六部長官  
 第二十七部長官  
 第二十八部長官  
 第二十九部長官  
 第三十部長官  
 第三十一部長官  
 第三十二部長官  
 第三十三部長官  
 第三十四部長官  
 第三十五部長官  
 第三十六部長官  
 第三十七部長官  
 第三十八部長官  
 第三十九部長官  
 第四十部長官  
 第四十一部長官  
 第四十二部長官  
 第四十三部長官  
 第四十四部長官  
 第四十五部長官  
 第四十六部長官  
 第四十七部長官  
 第四十八部長官  
 第四十九部長官  
 第五十部長官  
 第五十一部長官  
 第五十二部長官  
 第五十三部長官  
 第五十四部長官  
 第五十五部長官  
 第五十六部長官  
 第五十七部長官  
 第五十八部長官  
 第五十九部長官  
 第六十部長官  
 第六十一部長官  
 第六十二部長官  
 第六十三部長官  
 第六十四部長官  
 第六十五部長官  
 第六十六部長官  
 第六十七部長官  
 第六十八部長官  
 第六十九部長官  
 第七十部長官  
 第七十一部長官  
 第七十二部長官  
 第七十三部長官  
 第七十四部長官  
 第七十五部長官  
 第七十六部長官  
 第七十七部長官  
 第七十八部長官  
 第七十九部長官  
 第八十部長官  
 第八十一部長官  
 第八十二部長官  
 第八十三部長官  
 第八十四部長官  
 第八十五部長官  
 第八十六部長官  
 第八十七部長官  
 第八十八部長官  
 第八十九部長官  
 第九十部長官  
 第九十一部長官  
 第九十二部長官  
 第九十三部長官  
 第九十四部長官  
 第九十五部長官  
 第九十六部長官  
 第九十七部長官  
 第九十八部長官  
 第九十九部長官  
 第一百部長官

# 遞信省

## ●告示第四號

静岡縣下熱海電信分局ヨリ同縣下々田長野縣下伊那電信分局ヨリ同縣下飯田へ電線架設右  
兩所へ分局ヲ設置シ本月二十日ヨリ開局ス  
右告示ス

明治十九年二月八日

遞信大臣 榎本武揚

## ●告示第五號

本年二月第一號第貳号ヲ以テ布告相成候萬國郵便聯合條約實施ニ關スル細目規則里斯本府追加  
書別冊ノ通  
右告示ス

明治十九年二月八日

遞信大臣 榎本武揚

## ●告示第六號

本年二月第三号ヲ以テ布告相成候萬國郵便爲替約定實施ニ關スル細目規則及里斯本府追加  
書別冊ノ通  
右告示ス

明治十九年二月八日

遞信大臣 榎本武揚

●官令月報第貳號

(明治十九年二月份)

●告示第八號

本年一月中海軍船及ヒ西洋形商船左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治十九年二月十八日

遞信大臣 榎

本武揚 (信號符字略ス)

●告示第七號

一小形船々長技術免狀 第二百九十六號 明治十二年十二月二十六日登簿

右ハ鹿兒島縣平民三石與吉ヘ附與ノ處客年七月一日三重縣北牟婁郡錦浦海岸ニ於テ流失セ

シ旨届出タルニ依リ其所在見聞ノ者ハ速ニ管轄廳ヘ申出ヘシ但該免狀ハ無効ニ屬ス

右告示ス

明治十九年二月十日

遞信大臣 榎 本武揚

●伺指令

●山形縣ヨリ (明治十八年十二月四日)

○病死體解剖ノ義ニ付キ伺

病死體解剖ノ儀ハ醫術進步ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付雙方熟談ノ上郡役所ヘ届置候ハ、患部ノ剖觀不苦哉ノ旨伺出候者有之右ハ明治九年七月二十九日付三府ヘ御達ノ類例モ有之同様相必得可然哉

「指令」内務省 (明治十八年十二月二十七日)

伺之趣雙方熟談ノ上ヨリトモ官ノ許可ヲ可得儀ト可必得事

●大坂府ヨリ (明治十八年十二月二十六日)

○警部長以下略服ノ義ニ付キ伺

警部長以下略服ヲ以テ通常禮服ニ換用スル合ハ便宜正帽ヲ用ヒ又略服上衣羅紗ノ種類ニ依リテハ周圍ニ五分以内ノ縁ヲ施スモ苦シカラスヤ

「指令」内務省 (明治十八年十二月二十八日)

伺ノ通

令指伺

●官令月報第壹號

(明治十九年一月分)

●愛媛縣ヨリ (明治十八年十二月二十二日)

○歳入豫算増減報告ノ義ニ付キ伺  
十九年度歳入豫算増減報告ノ儀ハ豫算條規第八條ニ依リ毎月報告スヘキハ勿論ノ處右ハ條規第四條ニ因リ府縣ニ其決定額御達ニ後報告スヘキ儀ニ候哉果シテ然リトセハ本年九月ヨリ十九年三月迄ニ増減ヲ生ゼシ分豫算調製ノ際標準額ニ若干ノ増減ヲ見込加除セシ高ニ異動アル分ハ翌四月ニ於テ一時報告スヘキ儀ニ候哉

〔指令〕大蔵省 (明治十八年十二月二十六日)

同ノ趣四月分ニ取纏メテ報告候儀ト可相心得事

●岐阜縣ヨリ (明治十八年十二月二十八日)

○船鑑札記載方ノ義ニ付キ伺  
船鑑小回船等ノ内船梁船梁トモ之ナキモノハ荷物積載ノ要部ヲ量リ猶普通川船船梁兩梁ノ位置ニ比準シ適宜間數ヲ定ムヘキ旨ニ之アル處右ノ場合ニ於テハ鑑札雛形中自船梁至船梁何間ト之アル箇所ハ如何記載スヘキヤ

〔指令〕大蔵省 (明治十九年一月二十日)

同ノ趣左ノ通記載スヘシ

長何間

但シ船首ヨリ何尺何寸ヲ除ク  
船尾ヨリ何尺何寸ヲ除ク

●神奈川縣ヨリ (明治十八年十二月二十八日)

○豫算條規第八條中疑義ノ義ニ付キ照會  
明治十八年三月太政官第拾壹號達歳入出豫算條規第八條中ニ其部局若クハ郡區ノ報告書ヲ添ヘシ云々トアリ其ノ報告書ナルモノハ同條規第二條郡區細豫算書ノ振合ヲ以テ調理スヘキ儀ナルヤ又ハ普通ノ報告書體ニ依リ差支ナキヤ  
〔回答〕大蔵省 (明治十九年一月二十二日)  
右ハ第一部歳入豫算増減報告書書式ニ準シテ調理スヘシ

●高知縣ヨリ (明治十八年十二月十九日)

○徴兵ト海軍志願兵ト採用ノ義ニ付キ伺  
海軍志願兵徴募規則ニ據リ本年志願者ノ内十九年徴兵相當ニシテ其徴兵検査ヲ受ケ已ニ合格トナリタルモノト雖モ徴兵抽籤前ニ在テ募兵使ノ検査ヲ經テ採用證書ヲ授付セラレタル旨届出ツルモノハ徴兵令第十八條第四項ニ準シ取計可然哉將テ徴兵抽籤ヲ施行シ已ニ其割符ヲ總代人ニ交付シタル以上ハハ抽籤當日ヨリ以後テ云テ假令募兵使ノ採用證書ヲ受ケルモ勿論其證書ハ無効ノ儀ト被存候得共縣下僻遠ノ地ニ在テ徴兵抽籤ノ前日若クハ前々日又ハ數日前ニ在テハ海軍兵採用ヲ受テ實際不便ニシテ徴兵署ニ其旨届出ツル能ハサルモノハ假令徴兵抽籤ヲ施行スルモ總代人ノ割符ヲ受領スルモ抽籤前日迄ニ海軍採用證書ヲ所持シタルトキハ前段ニ據リ處分シ割符ヲ番號ハ缺號トキ之ヲ取消スヘキ儀ト相心得可然哉右

令指伺

●官令月報第壹號

(明治十九年一月分)

ハ海軍志願兵検査ト徴兵抽籤ト同時ニ相成彼是疑義ニ涉リ處分上差支候條相伺候也  
〔指令〕陸軍省(明治十九年一月六日)電報  
徴兵ハ海軍志願兵ト採用シ儀ハ總テ伺ノ通

●静岡縣ヨリ(明治十八年十二月二十二日)

○陸海軍下士卒單身旅行中疾病等費用ノ義ニ付伺  
陸海軍下士卒單身旅行中天災或ハ疾病ニ罹リ難關者フルトキハ相當ノ救護ヲ加フ其死亡セ  
ルモノハ假埋葬取計ヘキハ勿論ノ儀ニ有之候處右ニ關スル費用ノ儀ハ御省ニ於テ辨償相成  
候儀ト相心得可然乎

〔指令〕陸海軍兩省(明治十九年一月二十一日)  
伺ノ趣左ノ通可心得事

陸軍ニ在テハ隊附下士卒ニ限リ救護ニ要シタル費用ハ其所管ニ於テ本人俸給積置金等資  
力限り取立處辨シ死亡者ハ埋葬料トシテ下士ハ金十五圓兵卒ハ金十圓以内ノ實費ヲ處辨  
スヘシ尤親族ノ願ニヨリ死體ヲ引渡スルハ右埋葬料ヲ給スヘシ但隊外下士卒ハ總テ本人  
ヨリ辨償スルモノトス  
海軍ニ在テハ現役下士卒旅行中死亡并十一年乙第十號省達旅行證票規則第三條ニ該當ス  
ル者ニ係ル費項ハ總テ横須賀鎮守府ヘ請求スヘシ死亡者埋葬料ハ下士ハ金十五圓卒ハ金  
十圓以内ヲ以テ處辨スヘシ尤親戚故舊ノ願ニヨリ死體ヲ引渡スルハ定額ノ埋葬料ヲ給ス  
ヘシ

●茨城縣ヨリ(明治十八年十二月二十六日)

○學事年報取調諸表中疑義ノ義ニ付照會

- 一統計表中普通科ノ欄ハ高中初等科共現在修學スル者ヲ記スヘキヤ
- 一同表中他ノ學科ノ欄ハ曾テ普通科ヲ修メシト否トチ問ハス總テ現在他ノ學科ヲ修ムルモ  
ノヲ記入スヘキヤ
- 一學校表中卒業生徒ハ高中初等科ヲ混記シ符合號ヲ付セスシテ可ナルヤ
- 一出納表并ニ所有品及學資寄付表中器械ハ都テ理化學用器械ヨリ卓子椅子其ノ他瑣末ノ器  
具マテ混同記入シテ可ナルヤ
- 一出納表中諸給料ハ縣立諸學校ナラハ書記ノ給料ナルヘシト雖町村立小學校等ニ於テハ必  
用ナキカ加シ然ラサレハ一二ノ例ヲ示セ

〔回答〕文部省(明治十九年一月九日)

統計表中他ノ學科ノ欄内ニハ普通科ヲ卒ヘシモノニ現在他ノ學科ヲ修ムルモノヲ記入シ  
又出納表中諸給料ノ欄内ニハ小使等ノ給料モ總テ計入スルノ主旨ニシテ其他ハ總テ照會ノ通  
●富山縣ヨリ(明治十九年一月十四日)

○蠶絲業組合ノ義ニ付伺

桑葉賣買人ト桑園一段歩以上所有者ハ蠶絲組合ニ加入セシムヘキヤ  
〔指令〕農商務省(明治十九年一月十六日)  
桑葉賣買人ト桑園所有者ハ蠶絲組合ニ加入セシムルノ限ニアラス

# 伺指令

●高知縣ヨリ (明治十九年一月二十五日)

○志願兵徵募規則ノ儀ニ付キ伺

海軍志願兵徵募規則第三十二條ノ附添人ノ儀一縣ニ集合發程セシムル場合ハ徵兵入營ノ定員ニ准シ附添人ヲ付シ且該費用モ徵兵通ニ心得然ルヘキヤ

〔指令〕海軍省 (明治十九年一月二十七日)

附添人其他總テ伺ノ通

●鳥取縣ヨリ (明治十九年一月十五日)

○鳥獵禁制ノ儀ニ付キ伺

管下因幡國高草郡湖山池ノ儀ハ鳥取市街ヲ距ル凡ソ壹里ニ位シ周圍凡ソ三里面積七百餘町步ニシテ舊藩政ノ時ニ在テハ禁獵ノ場所ニシテ鴻鵠鴈鴨等ノ類群集棲息スルノ所ナリ然ルニ維新後舊法頓ニ廢滅鳥類棲息ノ地ヲ失ヒ近年ニ至テハ鴻鵠ノ如キハ絶エテ之ヲ見サルノミナラス鴈鴨等ノ諸水鳥類モ一年ニ減少シ遂ニ水鳥ノ類ハ悉ク其跡ヲ絶ツニ至ラントス是畢竟獵法ノ制禁ナキニ原因セルモノナレハ今ニシテ之カ保護ヲ爲サレハ有益ノ鳥獸繁殖ノ趣旨ニ乖戾可致ニ付前陳ノ湖山池一園ヲ以水鳥類ノ安息生育ノ場所トシ自今鳥獵一銃獵網獵其他トモ禁止致度素ヨリ藩政ノ舊慣モ有之取テ人民ノ營業上ニ差響キモ無之儀ト存候ニ付此段相伺候旨前十六年二月十五日

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

「指令」農商務省（明治十九年二月十九日）  
伺之趣開届候事

●東京府ヨリ（明治十九年二月十九日）

○航海及碇泊記事差出方ノ儀ニ付伺

本年一月二十五日御省乙第一號御達交申一年六月十二月兩度管轄屬ヨリ直ニ當省水路局  
ニ差出スヘシト有之右ノ毎半期々、取纏メ可差出儀、存候果シテ然ルハ當屬ヨリ水路  
部ヘハ一月七月ノ兩度同送スヘシヤ

「指令」海軍省（明治十九年二月二十三日）

伺之通

● 同 計 令

● 京 都 府

- 布達 甲第十六号 京都商業學校規則 七十三丁
- 布達 甲第十七号 區部備荒儲蓄施行規則 八十二丁
- 布達 甲第十八号 郡部同上 全 丁
- 布達 甲第十九号 蠶絲業者組合規約取結延期 八十三丁
- 布達 甲第二十号 政治ニ關セサル事項ヲ講談論議スル届出方 八十六丁
- 布達 甲第二十一号 新聞紙賣捌人届出方 八十七丁
- 布達 甲第二十二号 乙訓郡聯合町村會開設 八十八丁
- 布達 甲第二十三号 宇治郡同上 全 丁
- 布達 甲第二十四号 與謝郡同上 九十丁
- 布達 甲第二十五号 茶業組合準則追加 九十二丁
- 達 乙第二十八号 十八年乙第二百六号達中改正 八十三丁
- 達 同第二十九号 租稅不納者島根縣ヨリ照會 八十五丁
- 達 同第三十号 遊藝稼人失踪 八十六丁
- 達 同第三十一号 有位帶勳者紀元節遙拜時限 八十七丁
- 達 同第三十二号 新ニ入盤スル人犯滿三歲以上ノ小兒携帶ノ片交付方九十二丁
- 達 同第三十三号 德島縣等ニ虎列刺病發生 八十九丁
- 達 同第三十四号 十六年乙第五百五十五號達廢止 全 丁

● 官 令 月 報 第 貳 號

（明治十九年二月分）

- 達 同第三十五号 租税不納者鳥取縣ヨリ照會 全丁
- 達 同第三十六号 金上茨木縣ヨリ照會 全丁
- 達 同第三十七号 大坂府等監獄署ニ發疹室扶私發生 九十丁
- 達 同第三十八号 十七年乙第二百六號達廢止 九十丁
- 達 同第三十九号 租税不納者宮城縣ヨリ照會 九十一丁
- 達 同第四十号 歸休兵復習等 全丁
- 告 示第十六號 府會議員補欠撰舉會開設 八十八丁
- 示 第十七號 北垣知事東上 全丁
- 示 第十八號 色染織物共進會開設 八十六丁
- 示 第十九號 金祿公債証書發見 九十二丁
- 示 第廿一號 在京都能役武官等ノ向紀元節ニ參賀 八十八丁
- 示 第廿二號 府下ノ者青森縣ニテ營業ノ者税金徵收 九十丁

# 京都府

府令第一〇四號

甲第拾六號  
 今般府下京都上京區三十三組下丸屋町四百三番地ニ商業學校ヲ設置シ規則別冊之通相定候  
 課入學志願ノ者ハ來ル三月三十一日限リ履歷書相添當府限リ當府學務課ヘ申出スヘシ此旨  
 布達候事

但開校期日之義ハ進テ廣告ス  
 京都商業學校規則

## 第一章 宗旨

第一條 本校ハ主トシテ短期ヲ經テ商業ヲ營ミ又ハ進テ高等商業學校ニ入テシトスル者ヲ爲  
 ヲ商業學科ヲ授クニ所トス

第二條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年七月十五日ニ終ル

第三條 學期ハ學年ヲ分テ前後ニ學期トシ前朔ハ九月一日ヨリ翌年二月十五日ヲ以テ後期トス

二月十六日ヨリ七月十五日ヲテトス

## 第三章 學科課程

第四條 商業學科修業ノ年限ハ三年トス

第五條 商業學科ハ修身和漢文習字算術簿記商業書信商業地理圖書商品 商業經濟商業法

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)



規、代數幾何、理化學、英語、商業習字体操ヲ授ケルモノトス

第六條 商業學科課程ハ別表ノ如シ

第四章 入退學

第七條 入學ハ每學期ノ始トス  
但學級ニ欠員アルハ學期ヲ待ダズ相當ノ學力アル者ハ臨時試驗シテ之ヲ許スコトアル

第八條 入學志願者ハ小學中等科卒業ノ者若クハ之レニ相當ノ學力アルモノニシテ品行方正躰質健康ナル男子トス

第九條 官立公立ノ學校ニ於テ退校ヲ命セラレ爾後公立學校ヘ入學ヲ禁セラレタルモノハ入學ヲ許サス  
但入學禁止ノ處分ヲ受タル者ト雖モ特ニ解禁セラレシモノハ此限ニアラス

第十條 入學志願者ハ左ノ書式ニ據リ學業履歷書ヲ添ヘ本校ヘ出願スヘシ  
但保証人ハ丁年以上ニシテ上下京區内ニ於テ一家計ヲ立ルモノニ限ルヘシ

書式

入學願  
私儀今般御校ヘ入學致度依テ學業履歷書并既痘証相添此段相關候也

族籍  
住所京都府何(郡區)何(町村)何番戶

年月日  
願人 何 某 印  
何年何月日生

校長宛  
前書何某儀品行方正ナル者ニ付本人志願之通御加檢被下度候也

族籍  
住所京都(上下)區何町何番戶

年月日  
右保証人 何 某 印  
何年何月日生

第十一條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ據リ證書ヲ差出スヘシ  
書式

入學證書

私儀今度入學許可相成候ニ付テハ御規則堅ク相守候ハ勿論猥リニ退校等致間敷候依テ  
證書如此候也

族籍

住所京都府何(郡區)何(町村)何番戶

年月日  
何 某 印  
何年何月日生

校長宛

前書何某在學中本人身上ニ關スル一切ノ事件ハ拙者引請可申候依テ保証如此候也

族 籍

住所京都(上下)區何町何番戶

保証人

何

某 印

何年何月日生

前書保証人ハ當組ニ於テ一家計ヲ立ル者ニ相違無之候也

年月日

何 某 印

第十二條 卒業ヲ待タズ退學セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ保証人捺印ノ願書ヲ出スヘシ

第十三條 校則取締上ニ對シ不都合ノ行爲アル者ハ退學ヲ命スヘシ

但本條退學ヲ命シタル場合ニ於テハ其情狀ニ依テ全國一般若クハ本府ノ諸學校ヘ入學禁止ノ義ヲ其筋ヘ稟請スルコトアルヘシ

第十四條 學業進步遲滞ニシテ卒業ノ見込ナキ者ハ諭シテ退學セシムルコトアルヘシ

第十五條 休業ハ左ノ如クシテ

但臨時休業ハ其時々揭示スヘシ

孝明天皇祭

一月三十日

臘

八

日

庚

辰

卯

紀 元 節 二月十一日

春季皇靈祭 春 分 日

神武天皇祭 四月三日

神嘗祭 十月十七日

秋季皇靈祭 秋 分 日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月廿三日

日 曜 日

夏期 七月十六日ヨリ八月三十一日迄

冬期 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日迄

第六章 授業料

第十六條 授業料ハ一ヶ月上下兩區內在籍及同區内ヘ一戸寄留セシモノ金五拾錢上下京兩

區外ノモノ金五拾錢ヲ納メシム

第十七條 授業料ハ毎月三日迄ニ本校事務所ヘ納ムヘシ

但全月缺席ノ者ハ之ヲ納ムルニ及ハス

第七章 試業及學級進退

第十八條 試業ヲ分テ學期試業及臨時試業ノ二種トス

第十九條 學期試業ハ每學期ノ終リニ於テ其學期中履修セシ各課ノ試業ヲ行フモノトス

第二十條 臨時試業ハ各學期中ニ於テ學科進步ノ程度ニ從ヒ教員ノ見込ヲ以テ二回ヲ限リ臨時ニ之ヲ行フモノトス

第二十一條 學業成績點ヲ左ノ五種ニ區別ス

第一 某學科平常授業ノ成績ニ付スルモノ之ヲ日課點トス

第二 某學科臨時試業ノ成績ニ付スルモノ之ヲ臨時試業點トス

第三 某學科學期試業ノ成績ニ付スルモノ之ヲ學期試業點トス

第四 學期中某學科ノ日課臨時試業平均點ヲ合計シ學期試業ノ平均點ニ加ヘ三除メテ商キ學期修業點トス

第五 各學科學期修業點ト出席點ト合計シ之レニ修身科平常ノ行狀點ヲ加ヘ平均シテ得タル者ヲ全學科學期修業成績點トス

第二十二條 各課ノ成績點ハ一百ヲ以最高トス

第二十三條 每學期ノ終ニ於テ學業成績表ヲ製シ其保証人ニ報告スヘシ

第二十四條 一學期內其半期以上缺課セシ生徒ハ其事故ノ何タルヲ問ハス原級ニ止ムル者トス

第二十五條 學期修業成績點ノ六十以上ヲ得ル者ヲ及第トシ以下ハ原級ニ止ムル者トス但成績點六十以上ナルモノ一課目三十點以下二課目以上四十點以下ナルモノハ原級ニ止ム

第二十六條 學期試業ノ當日疾病等ニテ欠席スル者ハ試業期日內ニ出席スレハ特ニ之ヲ試驗スヘシ

第二十七條 學期試業合格ノモノハ第壹號ノ證書ヲ授與シ第三年後期ノ試業合格ノモノハ第貳號證書ヲ授與スルモノトス

第壹號

第貳號

族籍	姓名
年 齡	
商業何科第何年何期卒業候事	
年 月 日	
番 號	京都府京都商業學校

族籍	姓名
年 齡	
商業學科卒業候事	
年 月 日	
番 號	京都府京都商業學校

第八章 生徒必得

第二十八條 凡生徒ハ專ラ學業ヲ勉勵シ校則ヲ遵守スルハ勿論言語品行ヲ慎ムヘシ

第二十九條 職員又ハ教員ノ訓戒ヲ受ルモノハ謹テ其旨ニ遵マヘシ

第三十條 交際ハ信誼ヲ重シ友誼ヲ失フヘカラス

第三十一條 始業時限ニ遅参スル者ハ其旨ヲ監事ニ届ケ入場許可ノ証符ヲ受ケ教員ニ出スヘシ

但過参スル者ハ其時間ニ附スル出席點ノ半ヲ減ス

第三十二條 病氣又ハ止ムヲ得タル事故ニテ欠課スル者ハ翌日保証人ノ捺印セル届書ヲ出

第三十三條 病氣事故ニ因リ數日欠課セントスル者ハ數日ヲ豫定シ事由ヲ記載シ保証人捺

第三十四條 但シ病氣ニテ欠課一週間ヲ過シル者ハ醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第三十五條 教場用ニ供スル書器ハ私ニ使用スヘカラス

第三十六條 身体衣服ヲ潔クシ書籍什器ヲ亂雜スヘカラス

第三十七條 校内ノ樹木ヲ傷害シ瓦石ヲ擲ツ等總ノ不良ノ遊戯ヲ爲スヘカラス

商業學校科課程表

學年	第 一 年	第 二 年	第 三 年
學期	前 期 後 期	前 期 後 期	前 期 後 期
科 目	第一級全第 五 級全第 四 級全第 三 級	第二級全第 四 級全第 三 級	第三級全第 三 級
時 間	每 週 六 時	每 週 五 時	每 週 四 時
備 考	行 言 一 前 期 ノ 續	行 言 一 前 期 ノ 續	行 言 一 前 期 ノ 續

和漢文	五	五	五	四	三
讀書和文漢文 作文 假名交文 書讀文	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
習字	二	二	一		
楷書 行書	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續		
算術	五	五	五	四	四
珠算 早算 加減 乘除 筆算 四則 分數 雜題	同 異乘同除 同乘異除 早算 同小數比例	同 早算 同乘同除 早算 同小數比例	同 早算 同乘同除 早算 同小數比例	同 早算 同乘同除 早算 同小數比例	同 早算 同乘同除 早算 同小數比例
簿記	三	三	三	三	三
單式 複式	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
商業	一	一	一	一	一
受取手形 送狀仕 切勘定書 電信文 ノ類	諸証書 及委 任狀等	諸証書 及委 任狀等	諸証書 及委 任狀等	諸証書 及委 任狀等	諸証書 及委 任狀等
商業信	一	一	一	一	一
內國 地理	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
商業地理	一	一	一	一	一
內國 地理	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
商業圖畫	二	二	二	二	二
自 在 畫	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
商業經濟	一	一	一	一	一
簡易ノ 用器 畫	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
商業法規	一	一	一	一	一
地 特 性 品 等	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
代數	二	二	二	二	二
見本 鑑定 荷造 ノ 保 存 法 等	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
幾何	二	二	二	二	二
生 財 配 財	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
理化學	二	二	二	二	二
物 理 大 意	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
英語	六	六	六	六	六
綴 字 習 字 六 前 期 ノ 續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續
附業實習	六	六	六	六	六
讀 方 譯 讀 六 前 期 ノ 續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續	同前期ノ續

官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

合計	〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
體操	三	徒	手	運動	三	前期	ノ
續	三	經	捷	運動	三	前期	ノ
續							

(學年第三年分此ニ略ス)

●甲第十七号

明治十九年度備荒儲蓄施行規則通常區部會ノ決議ヲ取リ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ經テ左ノ通條項ヲ增加改正シ其他ハ十八年度施行ノ通相定候條此旨上下京區内一般ニ布達候事

區部備荒儲蓄施行規則

第二章 賦課 徵收

第七條 罹災ノ爲メ儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受タルモノハ該年度儲蓄金ノ徵收

ヲ免除スヘシ

第八條 公儲金ハ其課額ヲ折半シ半額ハ四月卅日限リ半額ハ十月卅一日限リ徵收スヘシ

第三章 支出 給與

舊第十六條ヲ第十七條トシ同條中或ハ儲蓄金ノ下(穀)ノ字ヲ挿入ス

第七條以下遞次條項ヲ改ム

明治十九年二月二日

京都府知事北垣國道

●甲第十八号

明治十九年度備荒儲蓄施行規則及附則共通常區部會ノ決議ヲ取リ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ經テ左ノ通條項ヲ改正加除シ其他ハ十八年度施行ノ通相定候條此旨各郡一般ニ布達候事

郡部備荒儲蓄施行規則

第二章 賦課 徵收

第五條 罹災ノ爲メ儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受タルトキハ該年度儲蓄金ノ徵收ヲ免除スヘシ

第六條 公儲金ハ其課額ヲ折半シ半額ハ四月三十日限リ半額ハ十月三十一日限リ徵收スヘシ

第四章 支出 給與

舊第十六條ヲ第十七條トシ同條中或ハ儲蓄金ノ下(穀)ノ字ヲ挿入ス

第五章 補助 貸與

第十八條 刪除

第五條以下遞次條項ヲ改メ附則ハ十八年度施行ノ通據置モノトス

明治十九年二月二日

京都府知事北垣國道

●甲第十九号

養蠶業者組合規約ノ議本年一月三十日迄取結認可顯出ヘキ旨客年當廳達第一七〇号ヲ以テ布達置候處右ハ本年二月二十八日迄延期候條此旨布達候事

明治十九年二月四日

京都府知事北垣國道

●乙第二十号

明治十八年十二月當廳乙第二百六号達中第貳号書式左之通改正候條此旨相達候事

郡區役所 戶長役場

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

何郡種痘明細表 明治何年 上半年

區別	初種		再種		三種		合計
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感	
滿一年以內							
滿一年以上二年以內							
滿二年以上五年以內							
滿五年以上十年以內							
滿十年以上十五年以內							
十五年以上							
合計							

戶長ハ其町村内ノ總數ヲ揚ケ郡區長ハ其郡區内ノ總數ヲ揚ケルベシ  
 種痘規則第三條ニ據リ接種セシモノハ表中ニ算入セズ表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記ス

規則第三條ノ場合ニ於テ第一條第二條ノ期限ニ該當シ接種セタルモノハ仍ホ表中ニ算入スルモノトス

明治十九年二月二日

京都府知事北垣國道

乙第二十九号

郡區役所

租税不納者ニシテ成規之通處分ノ未官損ニ歸シタルモノ別紙ノ通有之候旨嶋根縣ニ照會越候ニ付若シ管下ニ於テ再營業出願候節ハ該税金徴收ノ上當廳ニ送付スヘシ此旨相達候事

明治十九年二月四日

京都府知事北垣國道

示第十六号

府會議員之内上京區登名欠員ニ付本月中ニ於テ補欠撰舉會開設候條此旨該區一般ニ告示候事

但期日會場ハ該區長ヨリ公告スヘシ

京都府知事北垣國道

示第十七号

國道儀上東京候ニ付不在中大書記官尾越蕃輔應務代理候條此旨告示候事

明治十九年二月二日

京都府知事北垣國道

●示第十八号

本年四月十一日ヨリ五月十五日迄三十五日間京都御苑内博覽會場ニ於テ色染織物繡織ノ改良増進ヲ謀ラン爲メ同種ノ共進會開設之義願出願届候條右種類ヲ以テ營業候者精々出品共ニ改良増進ヲ謀ルヘシ此旨告示候事

明治十九年二月四日

●乙第三十號

京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔  
郡區役所 戶長役場  
加佐郡舞鶴西町貳拾八番戶平民藤木寅吉方止宿  
島根縣出雲國能備郡大塚村千八十四番地

遊藝稼人

鑑札遊第一一號

村口松太郎

右之者客月初旬鑑札携帶ノ儘失踪之旨該郡長ヨリ届出候條万一其所轄内へ立越該鑑札ヲ以營業願出候ハ、鑑札引揚本月分ヨリ月税金五拾錢ツ、追徴シ同郡役所へ送附可致此旨相達候事

明治十九年二月六日

●甲第貳拾號

政治ニ關セサル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前三ノ事項ヲ詳記シ會主ヨリ所轄警察署へ可届出此旨布達候事  
且明治十四年五月甲第六拾八號全年十一月甲第百九拾九號布達廢止ス

京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

一講談論議ノ事項

一講談論議スル人ノ住所氏名  
一會同ノ場所年月日時

明治十九年二月八日

京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●甲第貳拾壹號

新聞紙條例第十二條ノ發賣所及ヒ發賣人ニアラズシテ新聞紙類ヲ賣捌キ營業ヲ爲サントスル者ハ、族籍住所氏名及ヒ其新聞等ノ種類ヲ記シ營業三日所轄警察署ニ届出可シ其族籍等ヲ轉換シ又ハ新聞紙ノ種類ヲ増減シ及ヒ應業シタルハ速カニ其旨届出可シ若違背シタル者ハ違背罪ニ據リ罰セラル可シ此旨布達候事

但從前營業ノ者ハ二月廿日限リ本文ノ届出ヲ爲ス可シ

明治十九年二月十日

●乙第三拾壹號

有位帶動者ニシテ當廳へ參賀スヘキ向來ルハ一日紀元節逢拜々實時限左之通ニ候條右向々へ皆達方可取計此旨相達候事

但逾隔ノ向ハ被奉參呈不苦此旨ヲモ併セテ皆達スヘシ

一午前八時參廳同九時拜遊拜スヘシ

明治十九年二月八日

京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●官令月報第貳號

(明治十九年二月分)

●示第二十一號

來ル十一日紀元節ニ付在京都罷役武官從六位以上ノ輩ハ正裝神佛各宗派管長ハ祭服法衣神官奉任ハ祭服非役從六位以上ノ輩ハ大禮服無位勳六等以上ノ輩ハ通常禮服(燕尾服)着用同日午前第十時宮内省支廳へ參賀候様可達旨式部長官ヨリ通達有之候ニ付此旨上下京區一般へ告示候事

明治十九年二月八日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●甲第二十二號

教育費ノ内各小學校大中試檢費并生徒當興費及其會議費評定ノ爲メ乙訓全郡四十四ヶ町村ニ區域トシ聯合町村會開設ス此旨該區域内町村一般へ布達候事  
但本會規則ハ明治十七年當府甲第五十七號布達ニ依ルヘシ

明治十九年二月十三日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●甲第二十三號

教育費中小學校費及其會議費評定ノ爲宇治全郡ヲ區域トシ栗栖野村ヲ除クノ外三十六ヶ町村聯合會開設ス此旨該區域内町村一般へ布達候事  
但本會規則ハ明治十七年當府甲第五十七號布達ニ依ルヘシ

明治十九年二月十五日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●乙第三十三號

德嶋兵庫大坂等ニ虎列刺病發生シ德嶋兵庫兩縣ノ如キハ益蔓延ノ景况有之危險之至ニ付今般別紙之通及告諭候條精々告諭之旨趣徹底候様注意スヘシ此旨相達候事 (別紙略ス)

明治十九年二月十五日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔  
郡區役所 戶長役場

●乙第三十四號

明治十六年七月當廳乙第三百三十五號達ハ廢止ス此旨相達候事

明治十九年二月十五日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔  
郡區役所

●乙第三十五號

租税不納者ニシテ成規ノ通處分ノ末官損ニ歸シ及ヒ逃亡失踪等ニテ所在不明ニ付一旦湖定除却ノ分別紙ノ通有之候旨鳥取縣ヨリ照會越候ニ付若シ管下ニ於テ再營業出願スル手又ハ所在認知ノ節ハ該税金徵收ノ上當廳へ送付スヘシ此旨相達候事 (別紙略ス)

明治十九年二月十五日  
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔  
郡區役所

●乙第三十六號

租税不納ニシテ失踪所在不明又ハ成規之通處分ノ末官損或ハ勘定除却ニ係ルモノ別紙ノ通有之候旨茨城縣ヨリ照會越候ニ付若シ管下ニ於テ再營業出願スル手又ハ所在認知ノ節ハ該税金徵收ノ上當廳へ送付スヘシ此旨相達候事 (別紙略ス)

明治十九年二月分



明治十九年二月十三日

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

郡區役所 戶長役場

●乙第三十七號

大坂府兵庫滋賀兩縣監獄署内ニ發疹室扶私發生當府監獄本署ニ於テモ數名ノ該患者發顯傳播ノ景况有之危險甚カラシ今般別紙ノ通及言論候條精々豫防方注意スヘシ此旨相達候事

(別紙略ス)

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月十五日

●示第貳拾貳號

當府下ノモノニシテ自今青森縣内ニ於テ營業者ノ行商スルモノハ同縣地方稅規則ニ據リ本年度ニ相當ノ税金ヲ徵收候旨同縣ニリ公報有之候ニ付此旨告示候事

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月十三日

●甲第貳拾四號

容年二月當府甲第拾貳號布達ニ係ル與謝全郡(銀治町瀨師町ヲ除ク)聯合町村會ニ於テ更ニ物業費之内共進會費ヲ議定セシム候條此旨該區域一般ニ布達候事

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月十九日

●乙第三拾八號

明治十九年二月十九日

郡區役所

●乙第三拾九號

郡區役所

租稅不納者ニテ成規之通公賣處分ノ末官損ニ歸シタル金額及ヒ失踪ニテ處在不分明ニ付一旦勘定餘却相成スル分別紙之通有之候旨宮崎縣ヨリ照會越候ニ付若管下ニ於テ再營業出願スル手又ハ所在認知ノ節ハ該税金徵收ノ上當廳ニ送付スヘシ此旨相達候事 (別紙略ス)

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月十九日

●乙第四拾號

郡區役所 戶長役場

本年豫備兵復習召集ノ義近衛弁ニ鐵臺(仙臺廣照兩鎮臺ヲ除ク)ノ豫備兵及歸休兵(本年歸休ノ者ヲ除ク)共來ル四月五日ヨリ往キ三週日間復習施行有之且近衛豫備兵及歸休兵本籍所管鎮臺召集人員ニ差加ヘ共ニ常備隊ニ編入戰時充實ニセシメ剩餘ノ人員ハ召集不相成旨陸軍省ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事

京都府知事北垣國道代理

京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月二十二日

47 7A-79

二十九

●甲第二十五號

明治十七年(三月)當府甲第十六號布達茶業組合準則中第三條第二項ノ次へ左ノ一項ヲ追加  
第三項ヲ第四項トス此旨相達候事

京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

明治十九年二月廿六日  
追 加

●第三項 製茶検査法ヲ設ケ其正否ヲ鑑別スルコト

郡區役所 戸長役場

●乙第三十二號

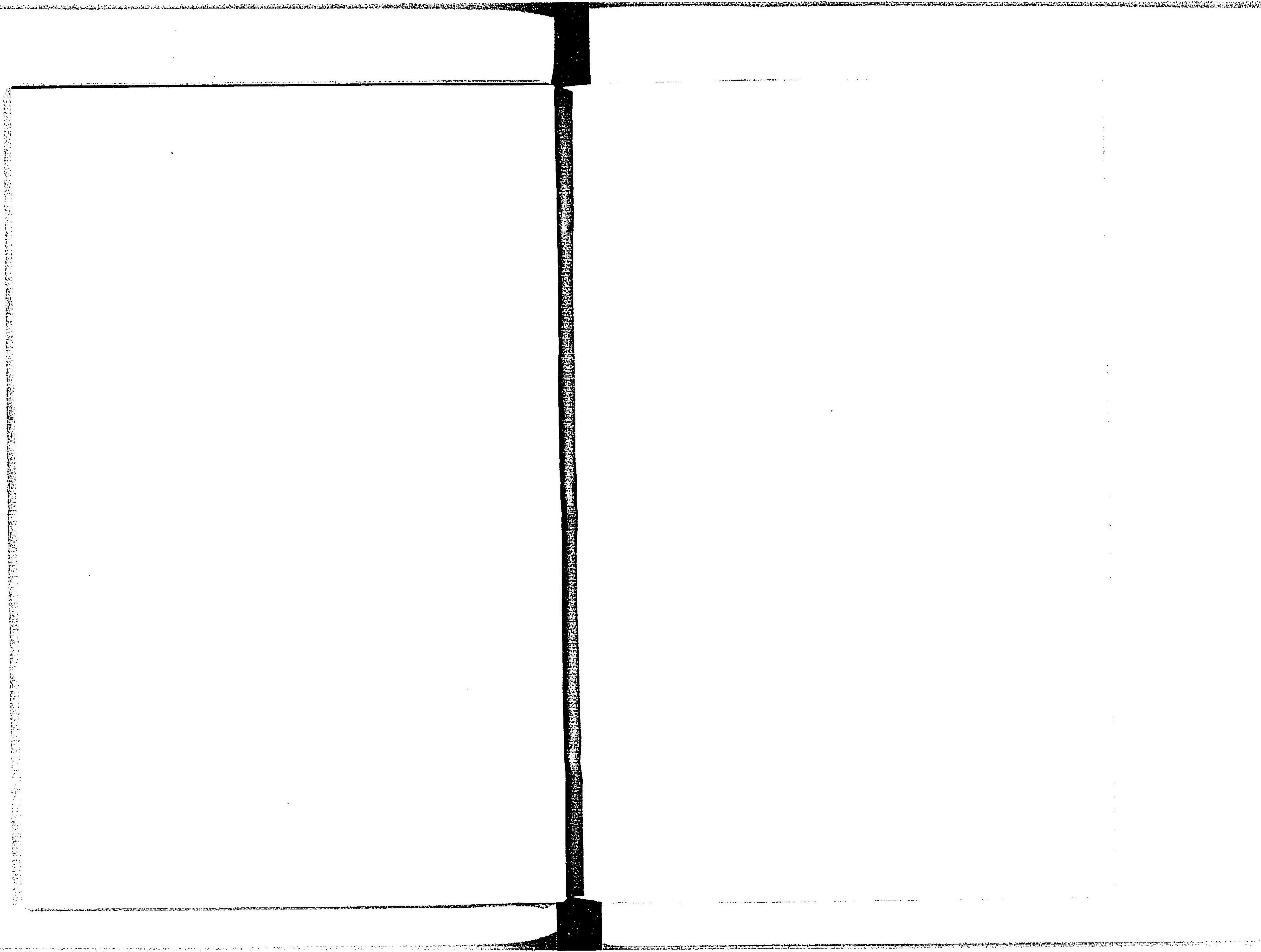
新ニ入監スル犯人ニシテ滿三歳以上ノ小兒ヲ携帯スルモノ及該携帯ノ小兒ニシテ在監中滿  
三歳ニ至ルモノアルトキ該兒ハ犯人原籍地ノ戸長ニ若シ原籍地遠隔ナルハ逃捕地戸長  
ニ逃捕地遠隔ナルハ其在監スル監獄署所在地ノ戸長ニ交付セシム候條此旨相達候事  
但該兒ノ無籍者ナルトキハ便宜就籍ノ手續ヲ爲スヘシ且犯人逃捕地若シハ監獄署所在  
地ノ戸長ニ本文ノ交付ヲ請タルハ更ニ犯人原籍地ノ戸長ニ交付スヘキ儀ト心得ヘシ

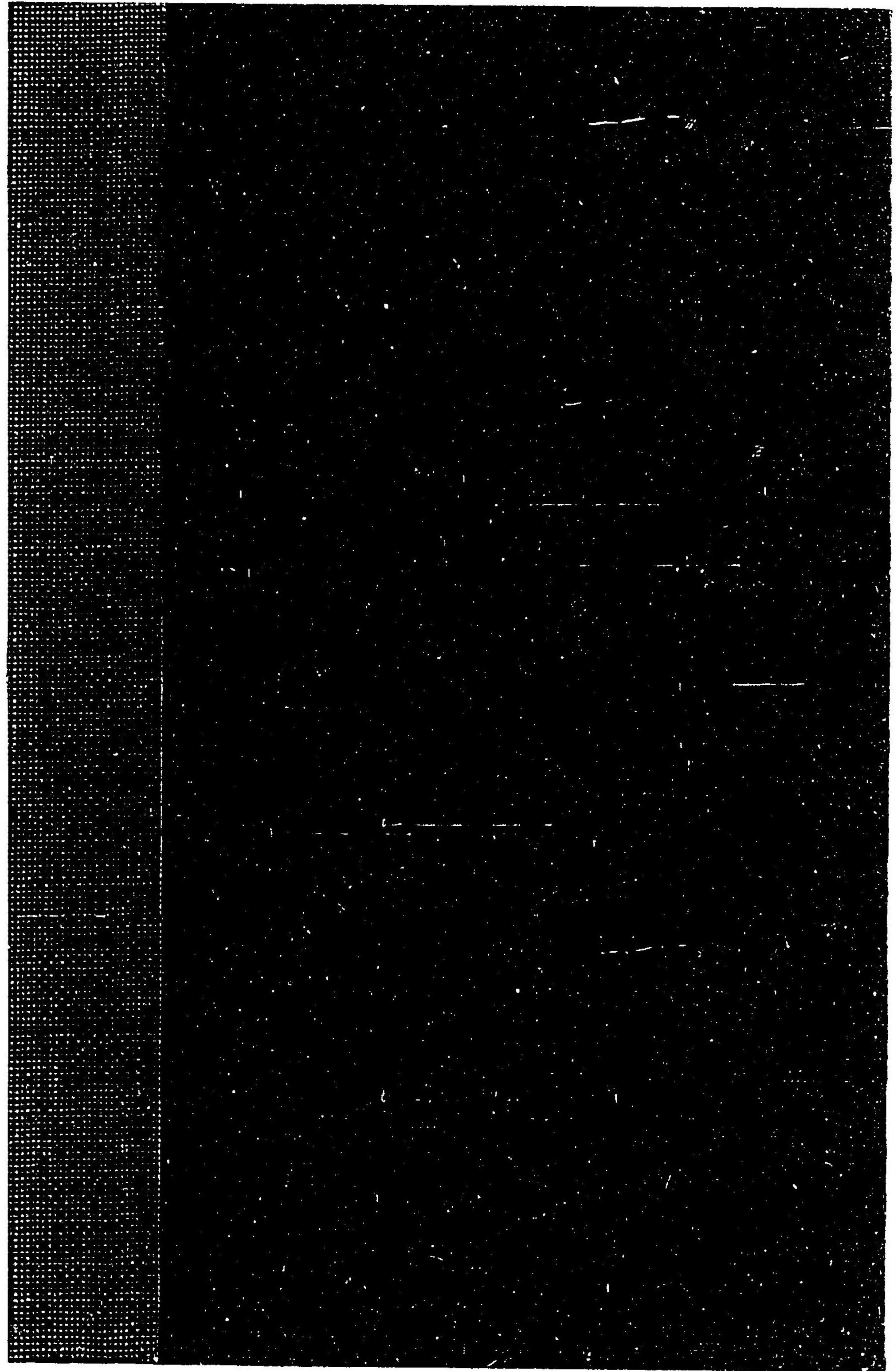
京都府知事北垣國道代理  
京都府大書記官尾越蕃輔

●示第十九號

一金祿公債發見ノ件(略ス)

明治十九年二月十三日





CZ  
4  
017

